

牛頸井手窯跡群

福岡県大野城市大字牛頸所在遺跡調査報告

大野城市文化財調査報告書

第 29 集

1989

大野城市教育委員会

牛頸井手窯跡群

福岡県大野城市大字牛頸所在遺跡調査報告

大野城市文化財調査報告書

第 29 集

1989

大野城市教育委員会

序

牛頸の窯跡群は分布状況も広範に及ぶとともに、須恵器を焼いた窯跡として全国的にも夙に有名です。近年の宅地造成や牛頸ダム建設工事などの開発に伴い発掘調査が行われ、その実態が明らかになりつつあります。とりわけ、昨年はハセムシ窯跡から、奈良時代の税「調」の文字を刻んだ須恵器が出土し、話題を呼びました。

本書で報告する井手窯跡は、ゴルフ練習場工事に伴って調査したものです。その結果、3基の窯跡を始め、山の頂上で瓦や須恵器を集めた遺構を確認することができました。瓦を焼いた窯は発見することはできませんでしたが、近くに存在していることが予想されます。また、何の目的で瓦や須恵器が山の頂上に集められていたのかということも考えねばなりません。今後の類例を待つて解明していきたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査に当り、ご協力頂いた㈱重松商事、調査現場等でいろいろとご配慮を頂いた㈱熊谷組に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成元年3月31日

大野城市教育委員会

教育長 久野英彦

例 言

- 1 本書は(株)重松商事の委託を受け、大野城市教育委員会が1988年に発掘調査を行った大野城市牛頸440－1 外に所在する埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 遺物番号は通し番号とし、図版と挿図の番号を統一した。
- 3 遺物の実測図は須恵器の断面を黒塗りにし、それ以外は白抜きにした。
- 4 第1図は国土地理院発行の地形図『福岡南部』『不入道』を使用したものである。
- 5 本書の執筆は、Ⅰ及びⅢを舟山良一が行い、その他並びに編集を向直也が担当した。

本文目次

I	はじめに	
1	調査に至る経緯	1
2	調査体制	1
II	調査の結果	
1	X地点の調査	4
(1)	窯	4
(2)	土坑	17
2	Y地点の調査	23
(1)	土坑	23
(2)	遺構に伴わない遺物	28
(3)	瓦	30
III	まとめ	34

図版目次

図版 1	(1) X地点遠景
	(2) X地点全景
	(3) 1号窯
	(4) 2号窯
図版 2	(1) 2号窯焼成部須恵器出土状況
	(2) 3号窯
	(3) 灰原II断面
	(4) Y地点遠景
図版 3	(1) S X01
	(2) S X01上段の遺物出土状況
	(3) S X01下段
	(4) Y地点 S K01
図版 4	出土遺物(1)
図版 5	出土遺物(2)
図版 6	出土遺物(3)
図版 7	出土遺物(4)
図版 8	出土遺物(5)

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置	2
第2図	調査地点	2
第3図	X地点地形図	3
第4図	1号窯実測図	4
第5図	1号窯出土須恵器実測図	5
第6図	2号窯実測図	7
第7図	2号窯出土須恵器実測図①	8
第8図	2号窯出土須恵器実測図②	9
第9図	3号窯実測図	10
第10図	3号窯出土須恵器実測図	11
第11図	灰原II出土須恵器実測図①	12
第12図	灰原II出土須恵器実測図②	13
第13図	灰原II出土須恵器実測図③	14
第14図	灰原II出土須恵器実測図④	15
第15図	灰原II出土須恵器実測図⑤	16
第16図	S K02出土須恵器実測図	17
第17図	Y地点地形図	24
第18図	S X01実測図	24
第19図	S X01出土須恵器実測図	25
第20図	S X01出土須恵器・土師器実測図	26
第21図	S K01～S K04実測図	27
第22図	Y地点出土須恵器・土師器実測図	29
第23図	Y地点出土・土師器実測図	30
第24図	Y地点出土瓦実測図①	折り込み
第25図	Y地点出土瓦実測図②	折り込み

表 目 次

第1表	X地点出土須恵器観察表	17
第2表	Y地点出土須恵器・土師器観察表	31
第3表	Y地点出土瓦観察表	33

I はじめに

1 調査に至る経緯

本市の牛頸は、古墳時代・奈良時代の須恵器窯跡群として著名である。その数については、調査したものがすでに200基を越えているので300基を下らないと推定される。この一角に(株)重松商事によってゴルフ練習場の建設が計画されたため、本市教育委員会、重松商事、工事担当の(株)熊谷組の3者でその取り扱いについて協議を行った。

その結果、窯跡やその他の遺跡の場所、員数を確定するのが肝要であるということで、分布調査、試掘調査を実施することとなった。この調査は8月下旬と10月に実施し、窯跡2ヶ所と性格不明遺構群1ヶ所、計3ヶ所の遺跡を確認した。

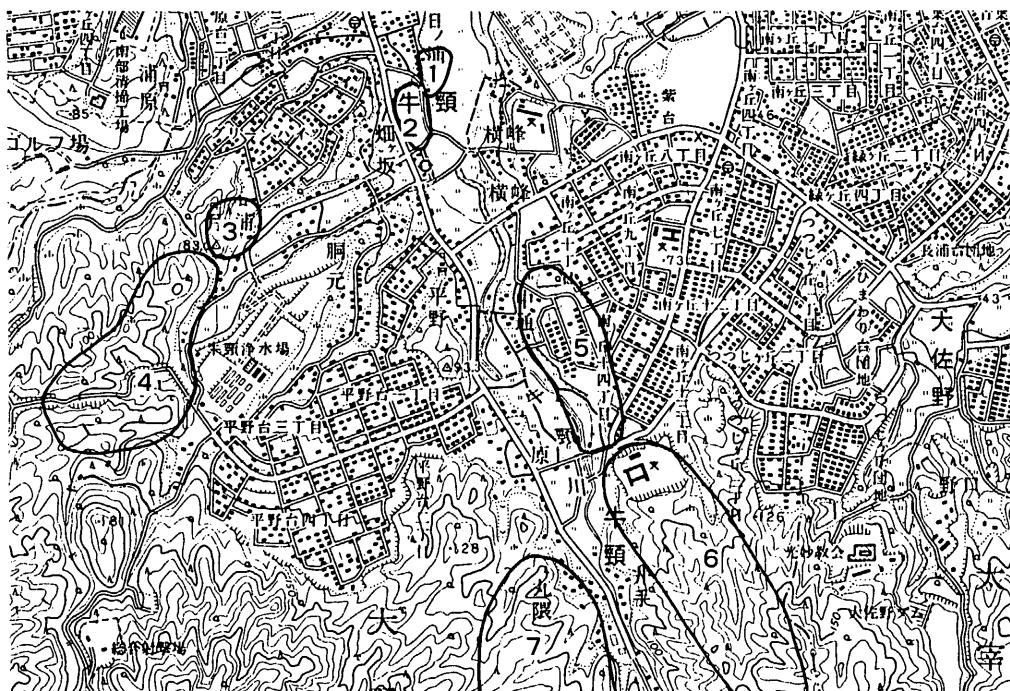
教育委員会と施主でさらに協議を重ね、緑地保存地区に含まれる1ヶ所については現状保存し、他の2ヶ所は削平される場所にあるため事前に発掘調査を実施することになった。期間は1988年（昭和63年）1月13日から2月25日までである。遺物の整理作業は翌年度に行った。

位置は牛頸川上流左岸の丘陵地帯で、牛頸窯跡群でも南端部に近い。小字名を採って井手窯跡群とした。調査箇所は北向きの急斜面にあるX地点と、頂上部に位置するY地点である。すぐ南側では牛頸ダム建設工事に先立ち、県文化課によって多くの窯跡が調査されている。

調査に際し調査費の全額を負担された重松商事を始め、熊谷組、地元各位、現地で指導助言をして頂いた大谷女子大学の中村浩先生に心からお礼申し上げたい。さらに、調査に携って頂いた作業員の方々にも厚く感謝申し上げる。

2 調査体制

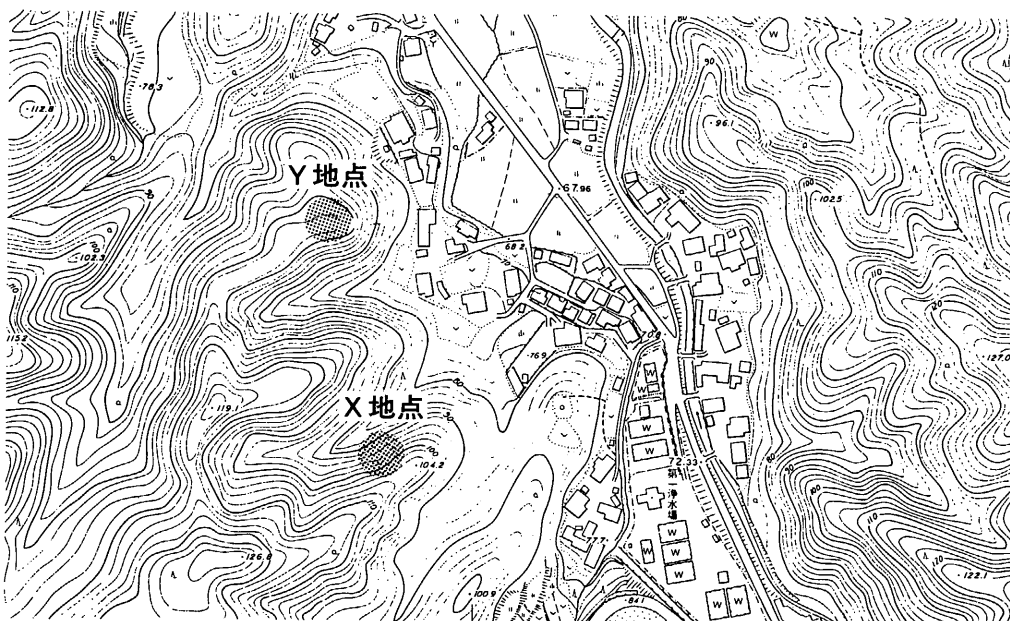
大野城市教育委員会	教育長	久野英彦
	教育部長	池田嘉門（1987年度）
	同	助村浩靖（1988年度）
	社会教育課課長	船越美直（1987年度）
	同 課長	岡部弥之助（1988年度）
	同 課長補佐	青木克正
	同 技師	舟山良一
	同 技師	向直也（調査担当）
	同 技師	徳本洋一
	同 嘱託	下村精一
	同 嘱託	秀嶋和子



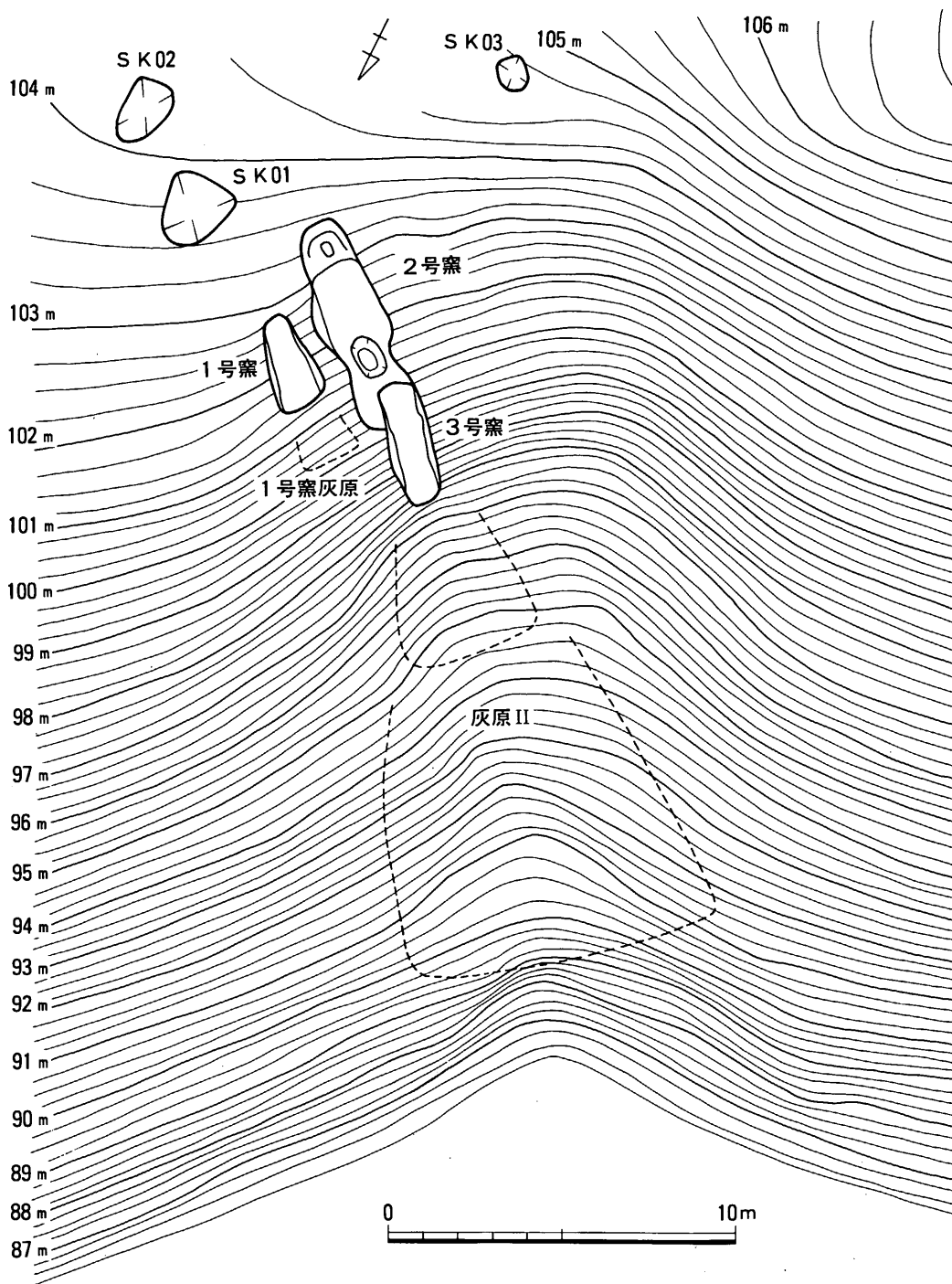
第1図 遺跡の位置 (1/25000)

<凡例>

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| 1 日ノ浦遺跡 | 2 塚原遺跡 | 3 月ノ浦窯跡群 |
| 4 小田浦遺跡群 | 5 中通遺跡群 | 6 ハセムシ窯跡群 |
| 7 井手窯跡群 | | |



第2図 調査地点 (1/5000)



第3图 X地点地形图 (1/200)

II 調査の結果

1 X地点の調査

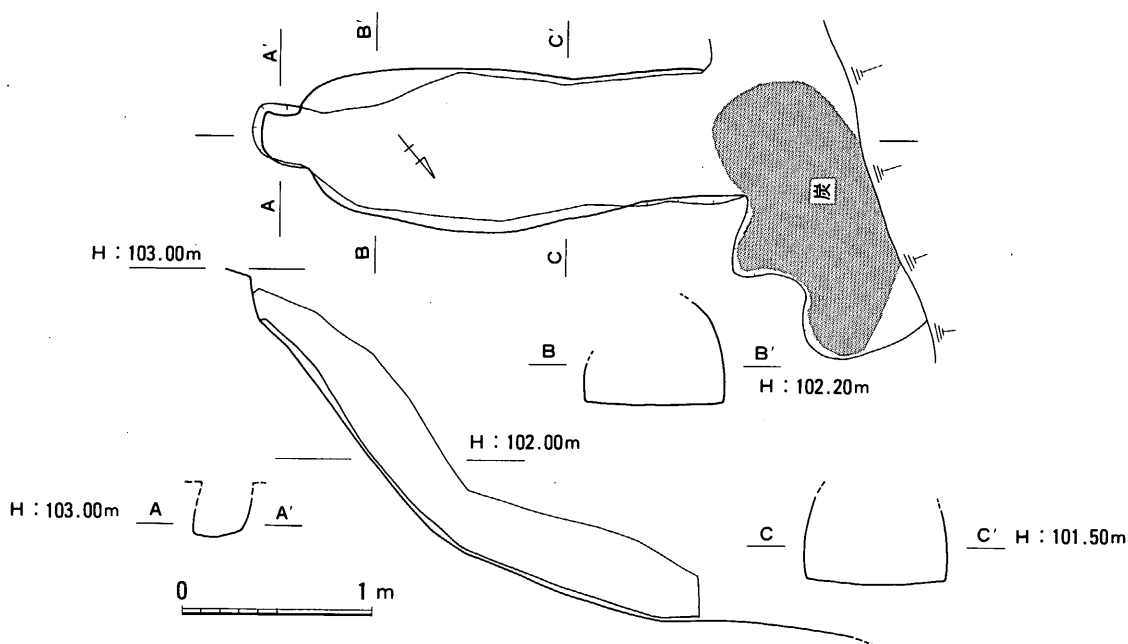
X地点では須恵器の窯跡3基（1号窯～3号窯）と、土坑3基（SK01～SK03）を確認した。また、窯に伴う灰原を2ヶ所（1号窯灰原、灰原II）を検出した。3基の窯は小さな谷状地に位置し、主軸をほぼそろえて造られている。なお、2号窯と3号窯は切り合い関係にある。窯は急斜面に造られているため作業は困難を要した（図版1）。

(1)窯

①1号窯（図版1(3)、第4図）

全長約2.5mを測る窯である。主軸方位は $N-51^{\circ}-W$ である。燃烧部の下方（低い方）は流失してしまっている。また向かって右側も流失してしまっているため燃烧部の炭は左側に片寄って見える。炭の層の厚さは約7cmである。

燃烧部の上の長さ約2mにわたってが焼成部である。最大幅85cmである。中心はやや北側に



第4図 1号窯実測図 (1/40)

ずれている。床の傾斜は上方約2分の1が約50°、下方2分の1が約20°と変化している。床面には焼台等は見られなかった。

焼成部の上は幅が30cmと極端に狭くなるが、ここが煙出部である。

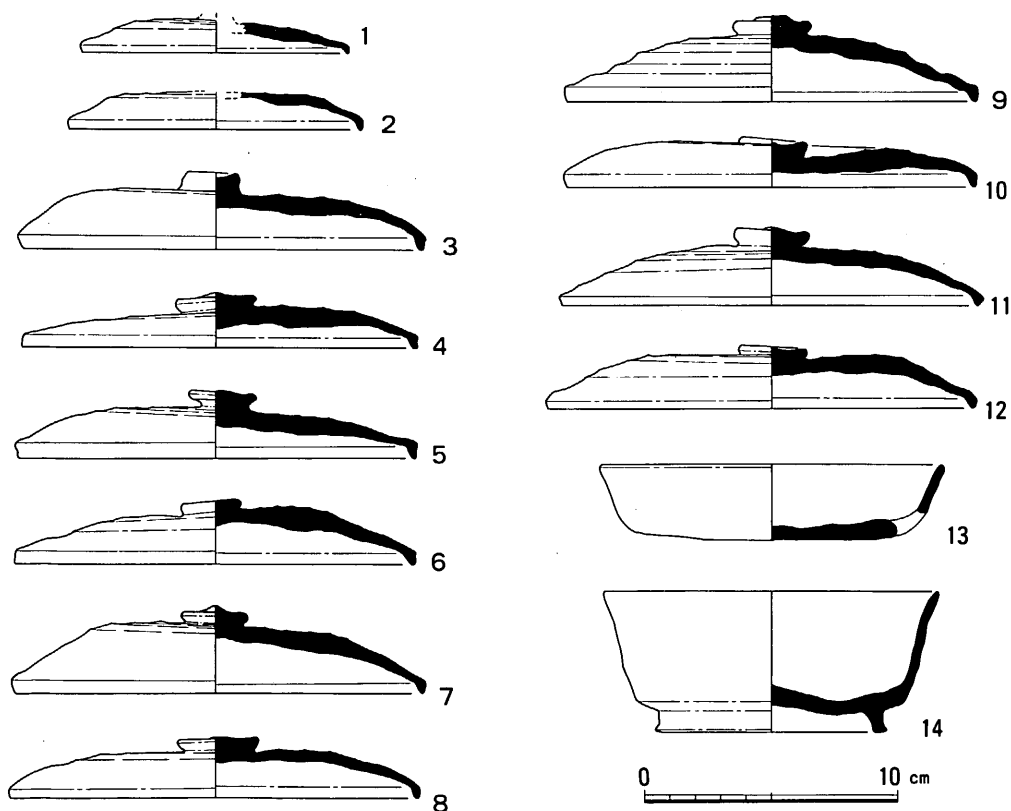
灰原は燃焼部下で長さ1m、幅1.5mの範囲で確認したが、傾斜が急であるためほとんどが流失している状況であった。灰の厚さは約5cmである。

出土遺物（第5図）

窯体内部から出土したのは蓋杯の蓋と身、杯である。

蓋杯・蓋（1～12） 2が破片のため不明であるが、その他はすべてつまみのつくものである。つまみは擬宝珠の形態を残すもの（5・7）、扁平に近いがやや中心部をつまみ上げるもの（4・5・8・9～12）、中心も高くないもの（3）が見られる。法量的には1・2がそれぞれ口径10.5cm、11.6cmを測るほかは15.7～16.8cmの範囲に収まり、規格化されていたことがわかる。手法的には肩部付近がヘラケズリ、内面中央部をナデ、その他は横ナデで仕上げる。

蓋杯・身（14） 体部が直線的に伸び、口縁端部がやや外反するものである。高台は比較的高い。横ナデ、ナデで仕上げる。



第5図 1号窯出土須恵器実測図(1/3)

杯(13) 体部と底部の境が丸いもので、復元口径が13.6cmを測る。横ナデ、ナデで仕上げる。2つの穿孔が見られ、焼き台として使用されたのではないかと考えられるが、焼成は悪く軟質である。

② 2号窯 (図版1(4)・2(1)、第6図)

3号窯の煙出部、焼成部上位を切って造られた窯である。全長5.5mを測り、主軸方位はN-50°-Wである。

1.3m×0.7m、深さ約30cmの舟底状ピットの部分で幅がいったんせまがるが、ここから下が燃焼部である。最大幅は1.6mで、右壁は3個の石を用いて壁を補強している。炭層の厚さは約10cmである。

焼成部は燃焼部から上約4mの部分である。中央部でやや膨らみを持ち、最大幅は約1.3mである。床面の傾斜角は30°強である。最上位には礫を用いた焼台が残っていた。ちょうどこの部分は天井部も残っている。

煙出部は完全に残存しており、高さ60cmで孔径は35×45cmである。地表に出る部分は赤変していたため、表土を剥いだ時点から窯の煙出であることが確認されていた。

灰原は次に述べる3号窯が、この2号窯とレベルを変えただけの平行関係にあるため、3号窯の灰原との区別がつかない状態であった。灰原にトレンチを設定しても断面に灰層の新旧は表れていなかった。このため2号窯と3号窯の灰原は無理に分けず、遺物は灰原IIとしてまとめて取り上げた。灰原IIは長さ14m、最大幅7m、深さ45cmである。

出土遺物 (第7・8図)

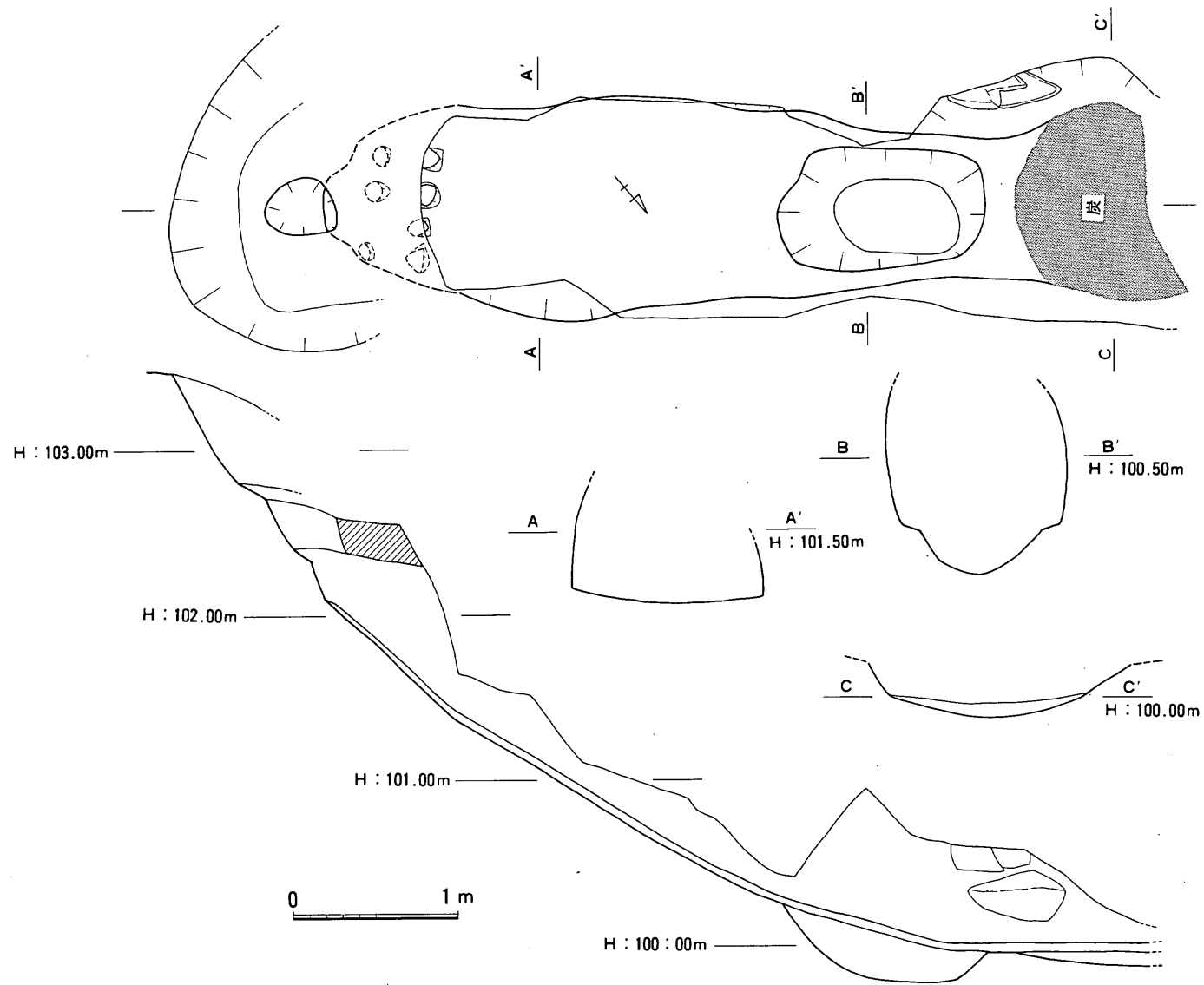
蓋杯の蓋・身が出土した。

蓋杯・蓋 (15~35) 15につまみがない以外はすべてつまみが付く。つまみの形態は、口径の小さいものに中心部のつまみ上げの高いものがやや見られる(16・17)ほかは比較的低い。口径は15.2~17.4cmを測るが、16が15.2cm、17~22が16cm前後、23~35が17cm前後と分けられる。形態的には丸味を帯びるものが多いが、天井部が扁平なもの(23・25・28)も見られる。手法的には肩部をヘラケズリ、その他を横ナデで仕上げる。

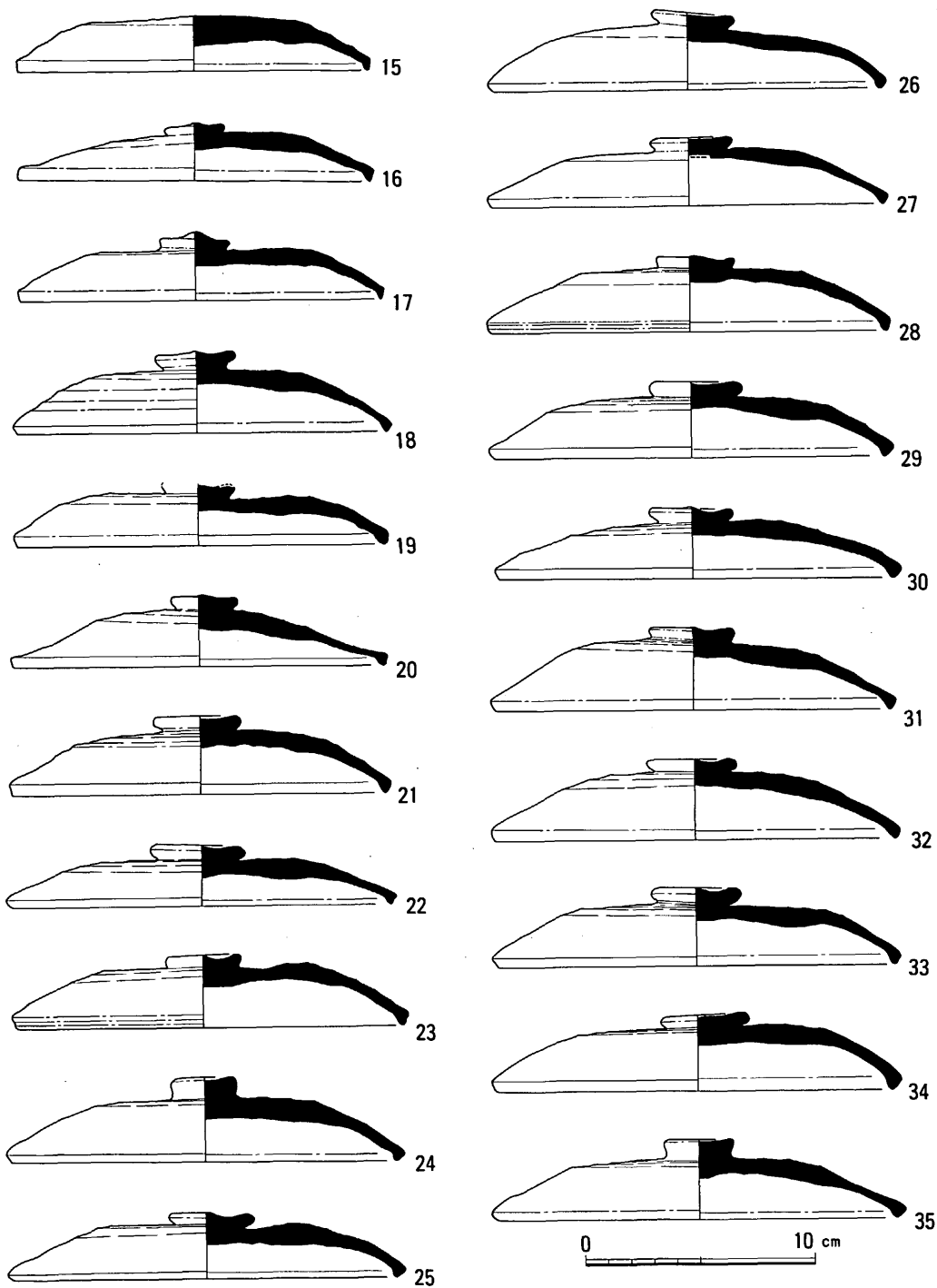
蓋杯・杯 (36~40) 器高が高く体部が直線的に伸び、口縁端部がやや外反するものである。高台は底部の端に付き、外側へ踏んばる。口径は36が13.8cm、その他は15.6~16.2cmとなり、規格化されている。

③ 3号窯 (図版2(2)、第9図)

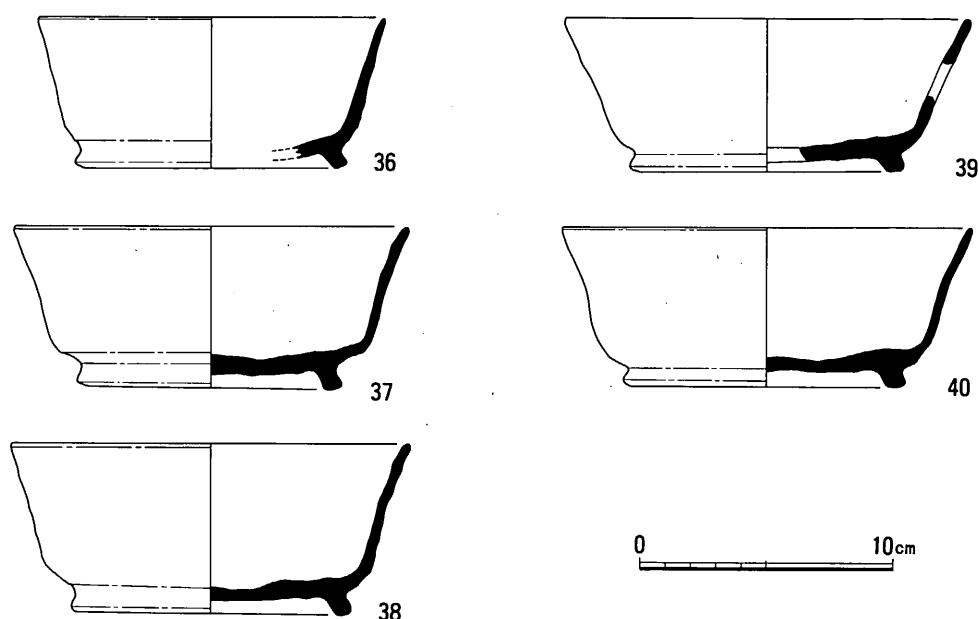
焼成部上位と煙出部を2号窯に切られ、燃焼部は自然流失していた窯である。燃焼部の流失部は表土を剥いだ時点で断面を露呈していた。残存長約3.5m、主軸方位はN-42°-Wである。



第6图 2号窟实测图 (1/40)



第7図 2号窯出土須恵器実測図① (1/3)



第8図 2号窯出土須恵器実測図② (1/3)

焼成部は最大幅約1.1mで、やや胴膨れする。床面の傾斜角は約45°である。床面および壁面は風化してもろかったが、壁の残存量は多い方である。床面には深さ約15cmの横に長い落ち込みを設けている。成品の安定を図るためである。

灰原は2号窯の部分で述べたとおり、2号窯と3号窯の灰原の区別ができないため、灰原IIとして一括して取り上げた。

出土遺物 (第10図)

杯蓋の蓋と身、平瓶が出土した。

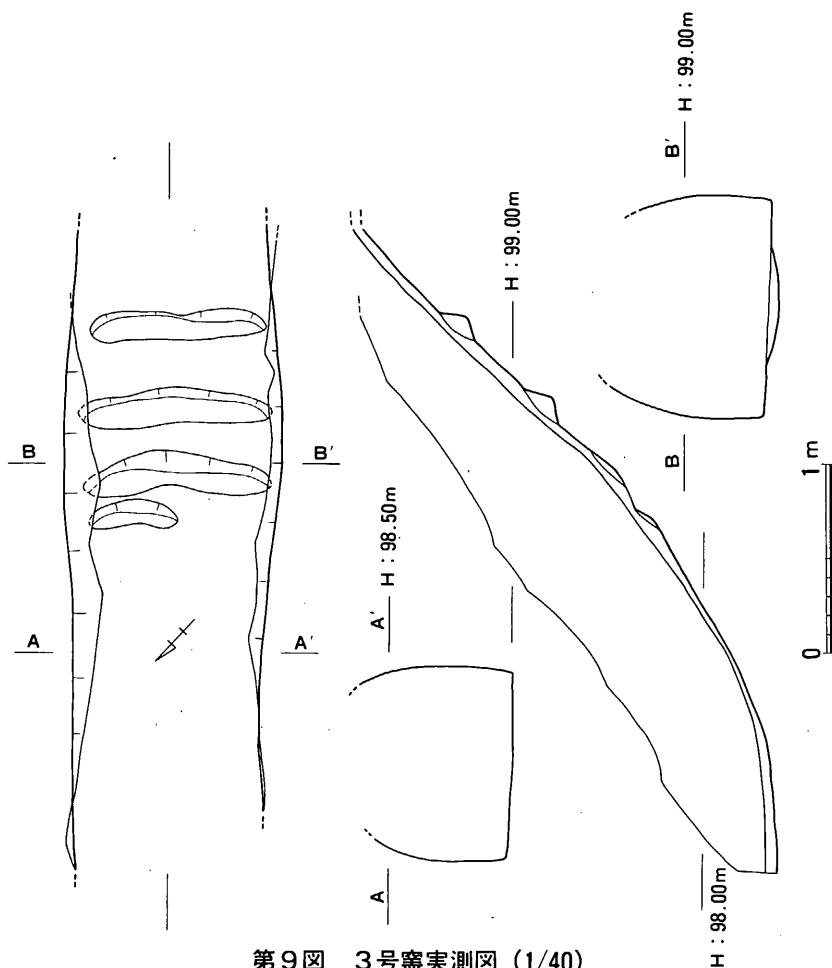
蓋杯・蓋 (41~47) かえりのあるもの (41~45) とないもの (46・47) がある。前者ではすべてかえりがやや外に出る。肩部の一部にヘラケズリが見られる。42・45には穿孔が見られ、焼き台として使用された可能性がある。かえりのないものはやや小ぶりで、窯体内出土の身の中でセットになるものはない。

杯蓋・杯 (48~52) 体部中位で屈曲するものである。高台は比較的高い。口径は14.3~15.0cmである。

平瓶 (53・54) 53は全体的に丸味を帯び、横ナデを行っている。54は53に比べ角張っている。胴部下端をヘラケズリしている。

④灰原IIの土器 (第11図~第15図)

蓋杯、杯、高杯、鉢、長頸壺、甕が出土している。



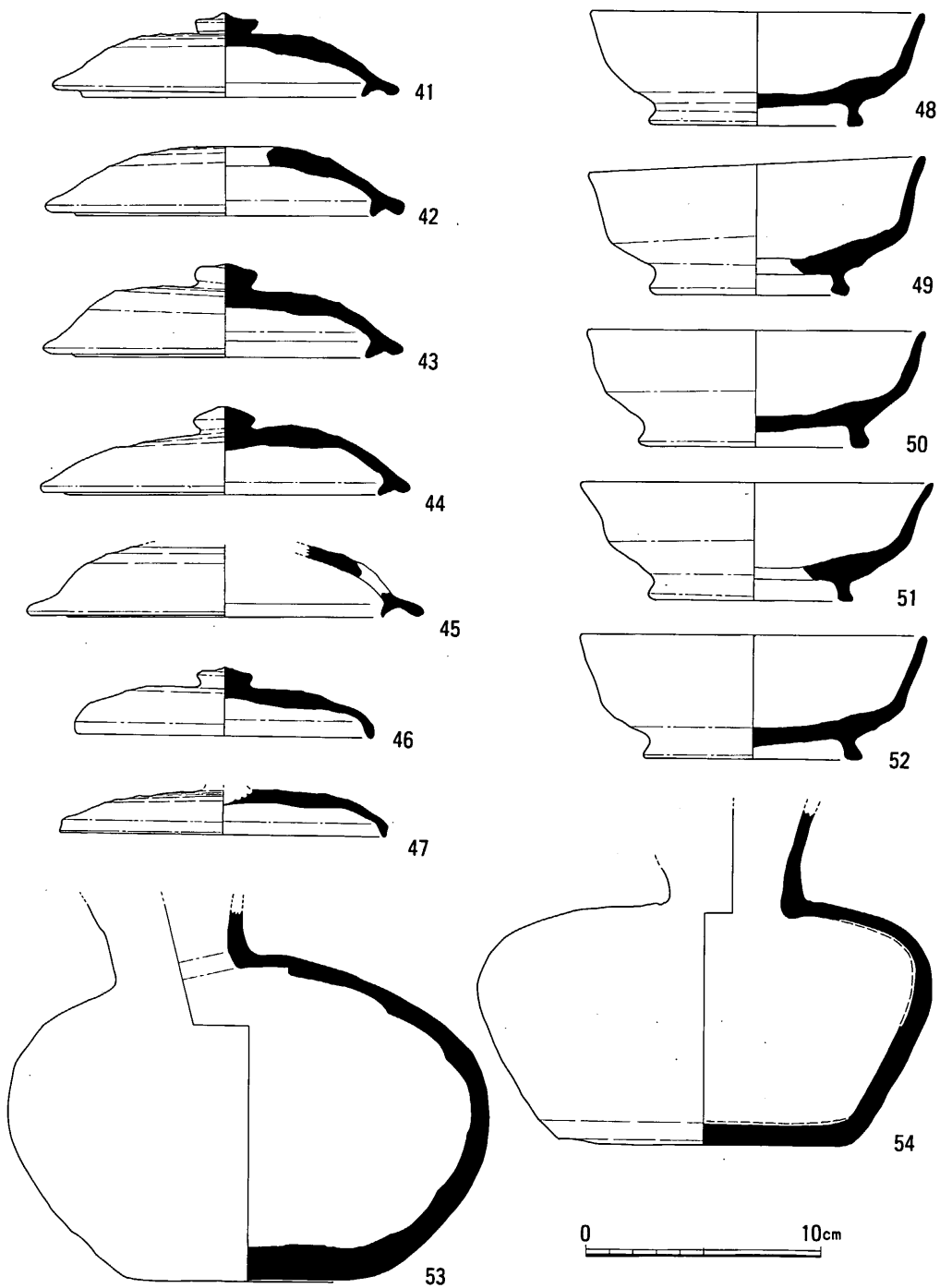
第9図 3号窯実測図 (1/40)

蓋杯・蓋 (55~94) かえりのあるもの (55~59)、かえりがなくつまみもないもの (60~68)、かえりがなくつまみのあるもの (69~94) がある。かえりのあるものは小型のものがいないが、かえりのないものには9.6~11.2cmの小型のものが見られる (60~62、69・70)。また、かえりもつまみもないものは口径が15.2cm以下であるが、つまみのあるものは17.8cmまでのものがある。あまり扁平なものはないが、天井部が丸いものとやや平坦気味のものがある。

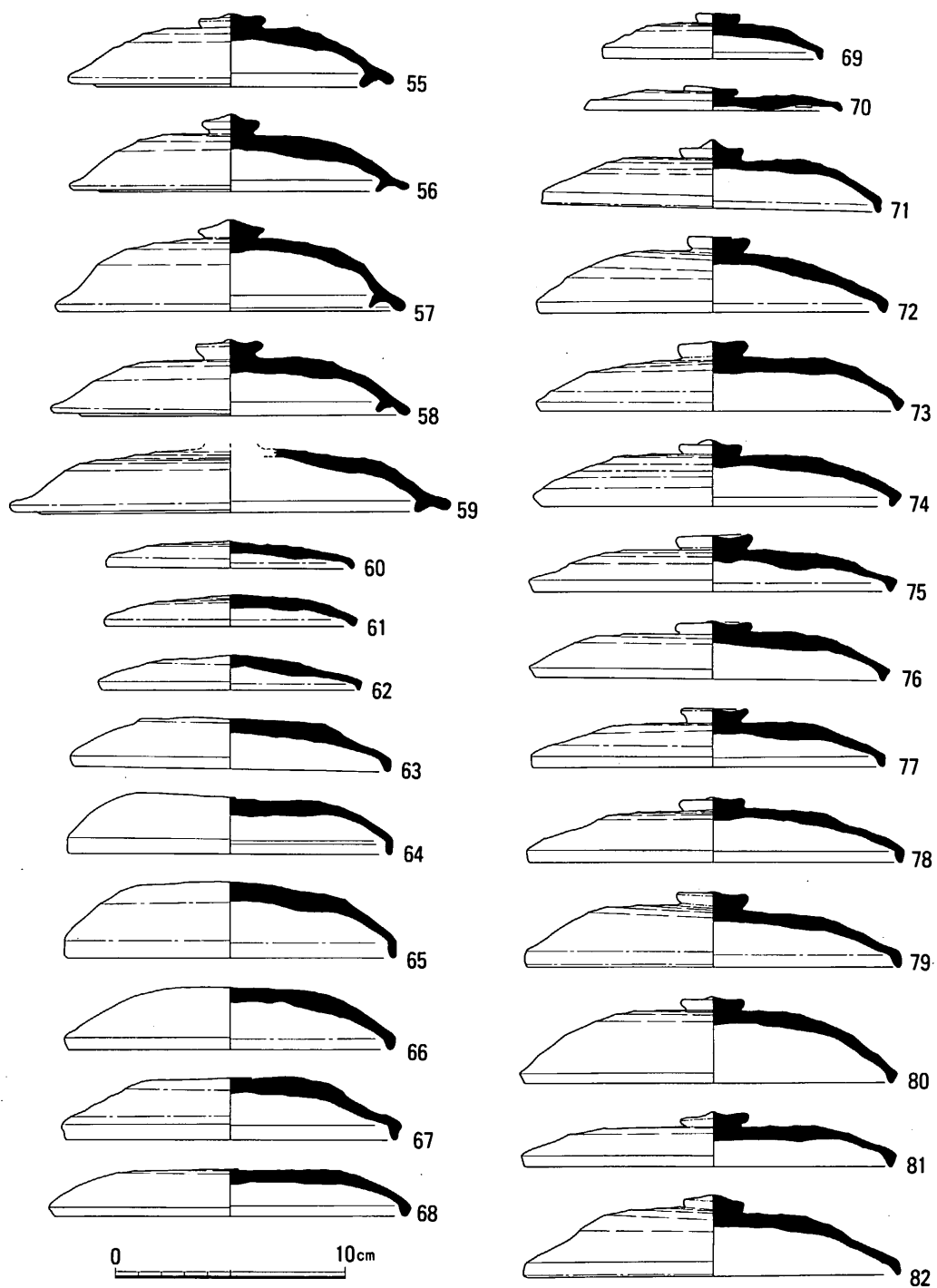
蓋杯・杯 (95~117) 相対的に器高の低いもの (95~98) と高いもの (99~117) がある。前者のうち95~97は高台が高く外へ踏ん張り、蓋55~59とセットをなすものであろう。器高の高いものでは口径が10~11cm前後のもの (99~101)、14cm台のもの (102~112)、16cm前後のもの (113~117) に分けられる。104・105の底部外面にはヘラ記号が見られる。

杯 (118~125) 比較的器高の高いもの (119) とそうでないものがある。底部はヘラ切りを行った後ナデる。体部は横ナデである。

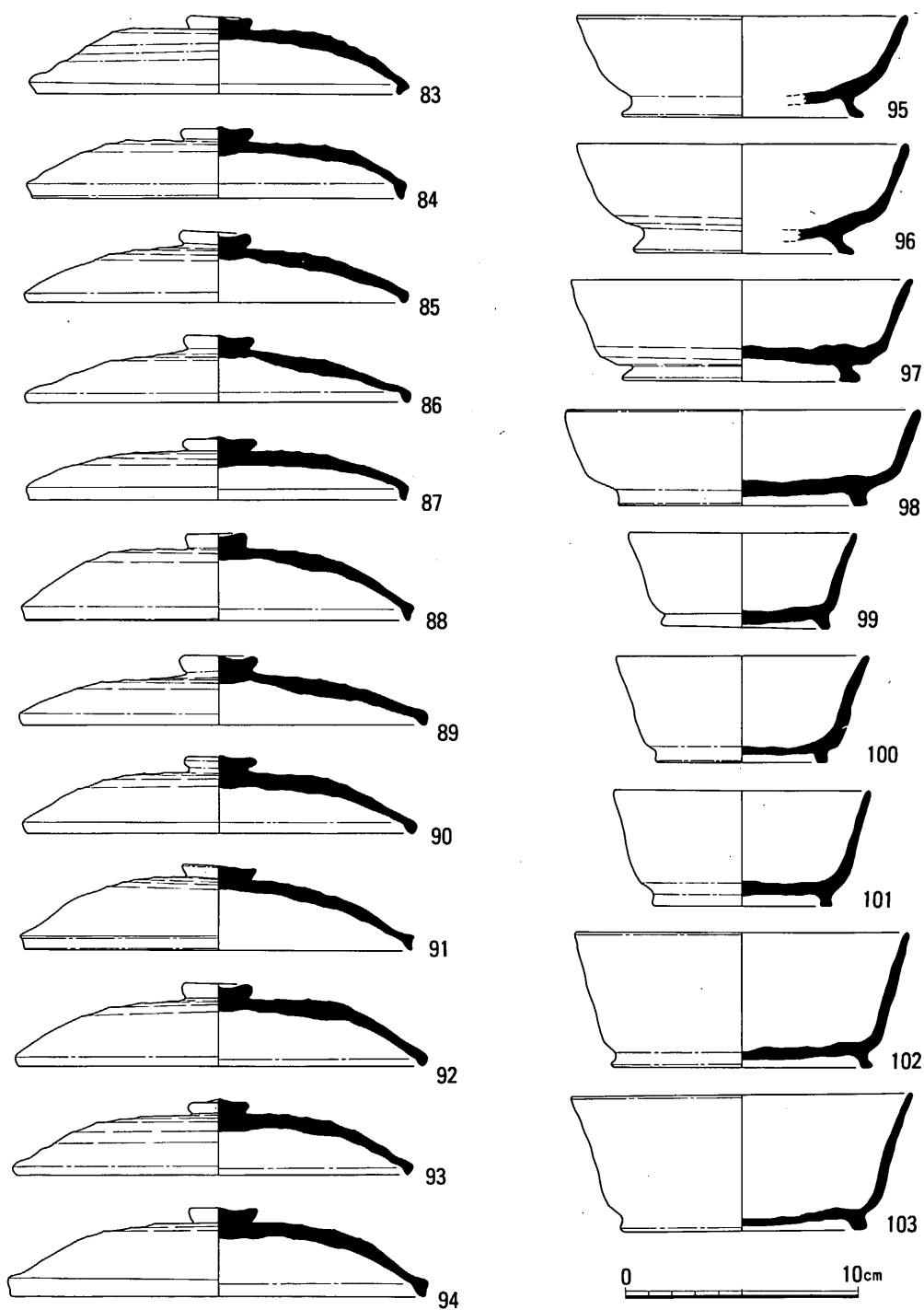
高杯 (126~128) 脚部のないものもあるが、すべて短脚と思われる。128は脚部がはずれた



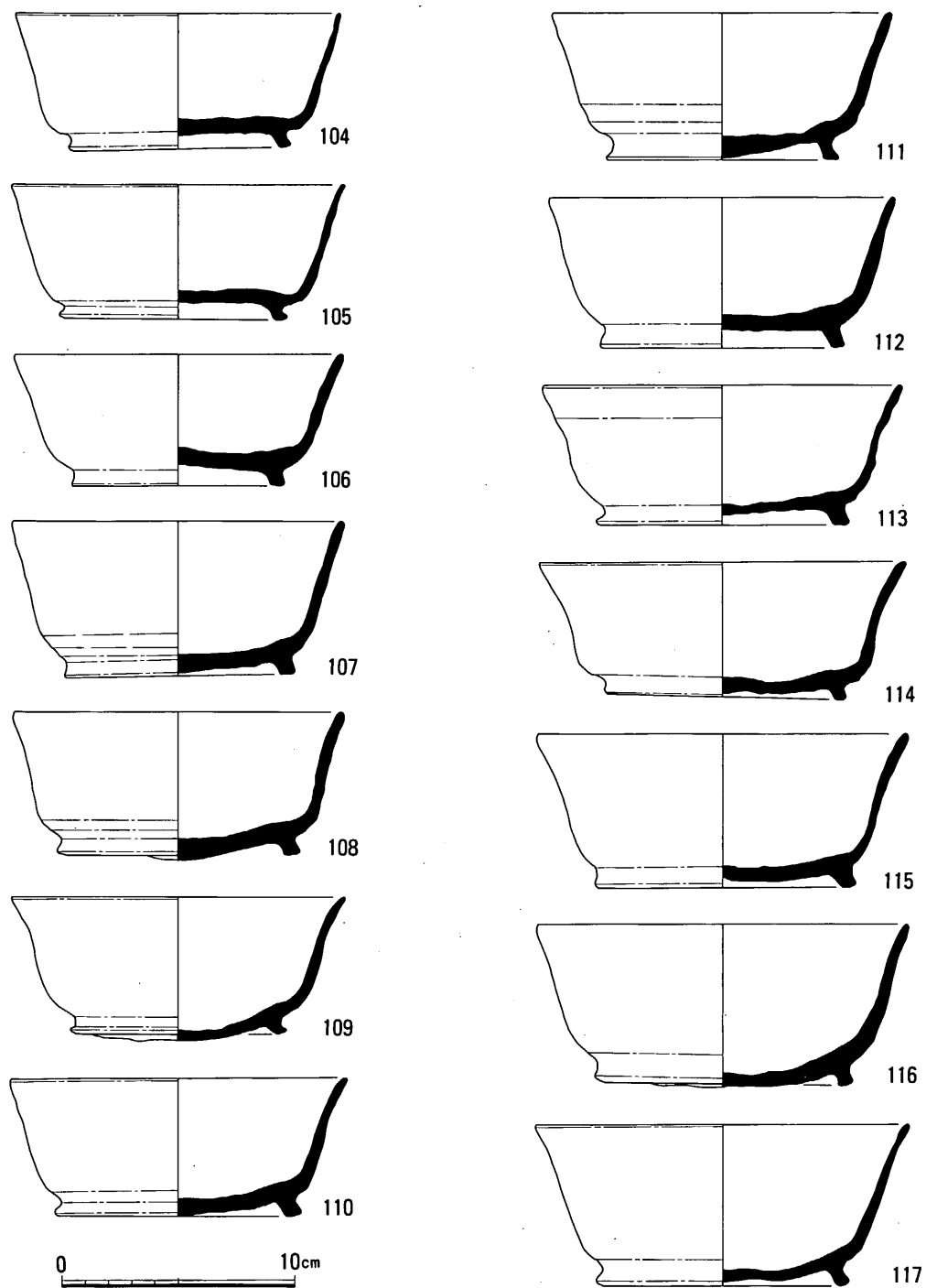
第10図 3号窯出土須恵器実測図 (1/3)



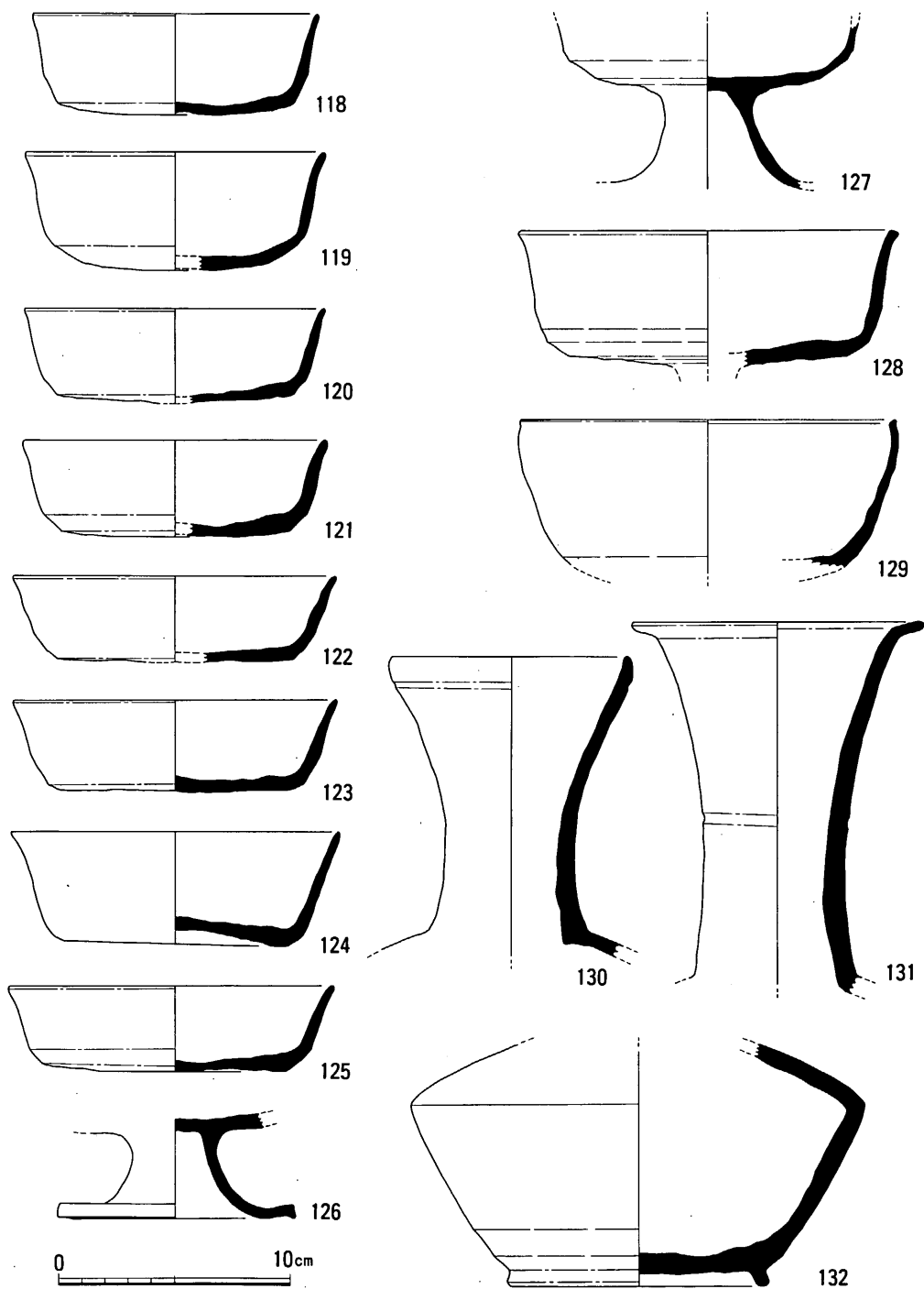
第11図 灰原Ⅱ出土須恵器実測図① (1/3)



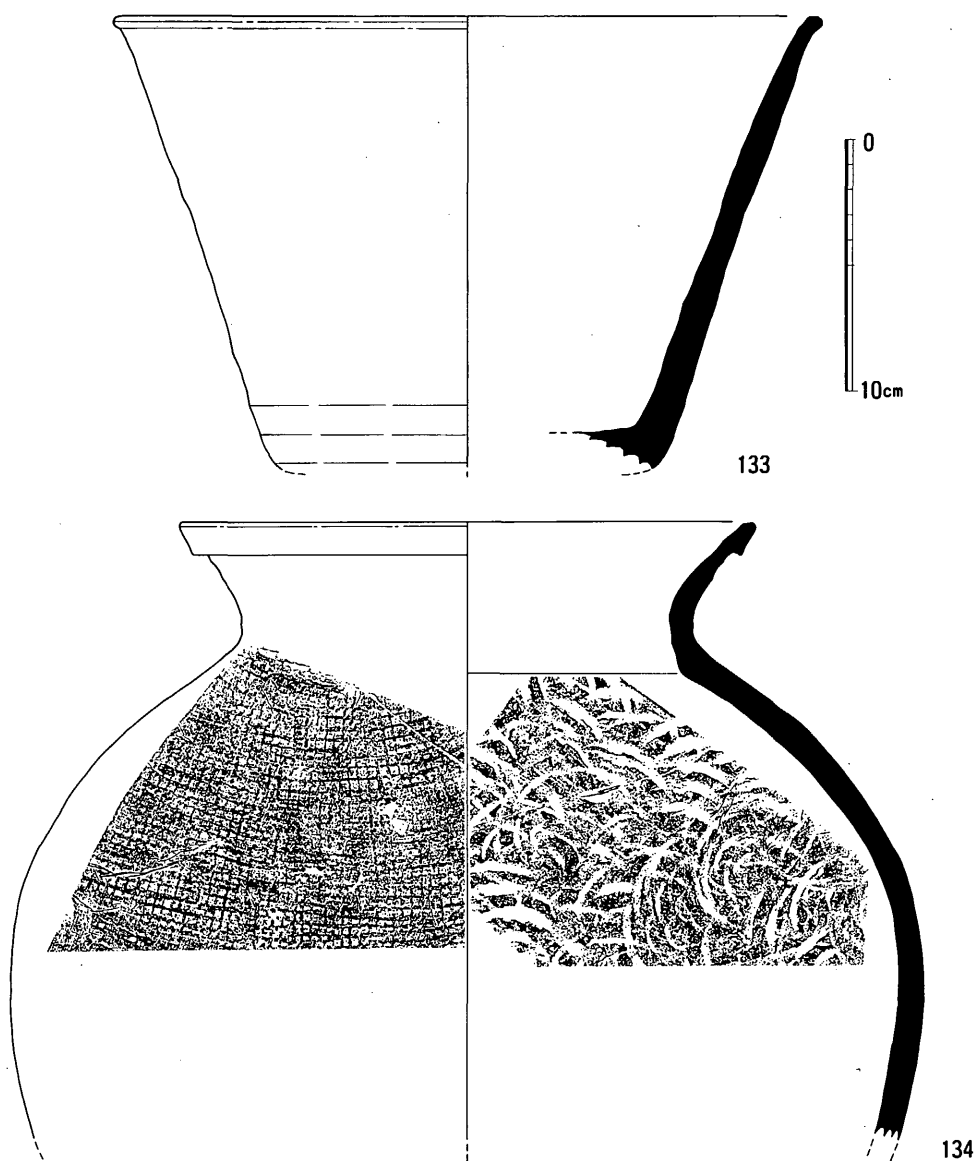
第12図 灰原Ⅱ出土須恵器実測図② (1/3)



第13図 灰原Ⅱ出土須恵器実測図③ (1/3)



第14図 灰原II出土須恵器実測図④ (1/3)



第15図 灰原Ⅱ出土須恵器実測図⑤ (1/3)

痕跡がある。

鉢 (129・133) 129は小破片である。口縁端部内面に稜を持つもので、体部外面下部をヘラケズリし、その他の体部は横ナデを行う。133は口縁端部が外側へやや肥厚するものである。

長頸壺 (130～132) 口頸部と胴部別々であるが、口頸部は2種類ある。丸く終わるもの(131)と外側へ折れ曲がるもの(132)である。

甕 (134) 小ぶりの甕で、口縁部を折り曲げた特徴的な形態を示す。

(2)土坑

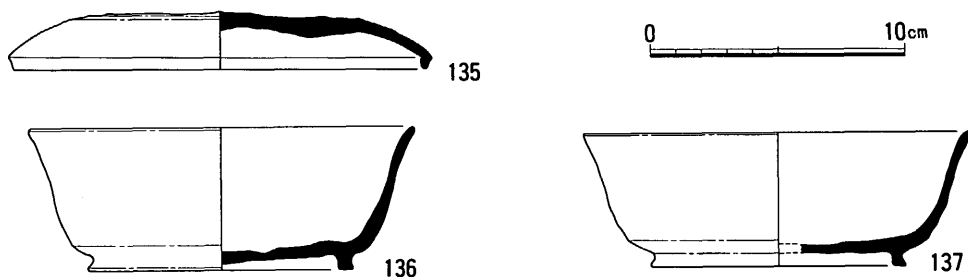
3基の窯が位置する斜面よりも上位、すなわち標高103m以上のやや平坦な地形上にSK01～SK03の3つの土坑を検出した。深さは10～20cmのもので、いずれも埋土には少量の炭を含んでいた。窯との直接的な関係を示す状況はなかったが、埋土中の炭は窯で焚かれた燃料の炭を捨てたものかもしれない。

①SK02の出土遺物（第16図）

3つの土坑のうちSK02から図示できる須恵器片が出土した。

蓋杯・蓋（135） かえりのないもので、口縁端部を折り曲げる。ヘラケズリは行わない。

蓋杯・杯（136・137） 体部が直線的に伸び、口縁端部が外反する。高台は底部端部に付く。



第16図 SK02出土須恵器実測図（1/3）

第1表 X地点出土須恵器観察表

法量の（ ）は推定値、
復元値を示す

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
1	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①(10.5)	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色 調内面灰色、外面暗灰色。残存3/4。
2	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①(11.6)	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成 良好。色調内外面灰色。残存1/2。
3	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①15.7 ②3.1	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや 良好。色調内外面暗灰色。ほぼ完形。
4	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①15.6 ②2.2	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや不良。 色調内外面褐色。残存3/4。
5	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①15.7 ②2.75	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成やや 良好。色調内外面暗茶褐色。残存4/5。
6	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①15.8 ②2.6	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや 不良。色調内外面灰色。残存3/4。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
7	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①16.1 ②3.6	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや不良。 色調内外面淡灰色。ほぼ完形。
8	杯蓋	1号窯 灰 原	①(16.1) ②2.4	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色 調内外面淡灰色。残存1/2。
9	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①(16.0) ②3.4	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成 良好。色調内外面淡緑灰色。残存1/2。
10	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①16.1 ②2.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色 調内面淡灰色、外面淡灰白色。残存1/2。
11	杯蓋	1号窯 燃 焼 部	①16.4 ②3.1	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成やや良好。 色調内外面灰色。残存1/2。
12	杯蓋	1号窯 焼 成 部	①(16.8) ②2.5	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色 調内外面灰色。残存1/2。
13	杯	1号窯 焼 成 部	①(13.6) ②3.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不 定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色 調内外面淡灰色。残存4/5。底部と体部 の境・底部の2ヵ所に穿孔あり。
14	杯身	1号窯 燃 焼 部	①(13.2) ②5.6 ③(9.2) ④0.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不 定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒外多く含む、粗。焼成良好。 色調内外面黒色。残存1/2。
15	杯蓋	2号窯 焼成部床	①15.2 ②2.4	天井部外面1/2回転ヘラ削り後ナデ、内 面1/5不定方向のナデ。他は回転ナ デ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや良好。 色調内面淡明褐色、外面明褐色。完形。
16	杯蓋	2号窯 焼成部床	①15.2 ②2.6	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや良好。 色調内外面赤紫灰色。残存1/2。
17	杯蓋	2号窯 焼成部床	①15.7 ②3.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成 やや良好。色調内外面茶灰色。残存1/2。
18	杯蓋	2号窯 焼 成 部	①16.0 ②3.55	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成やや良好。 色調内外面茶褐色。完形。
19	杯蓋	2号窯 燃 焼 部	①16.0 ②(2.75)	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成 やや良好。色調内外面淡黄灰色。完形。
20	杯蓋	2号窯 焼成部床	①(16.0) ②3.1	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。 色調内外面暗茶褐色。残存1/2。
21	杯蓋	2号窯 焼成部床	①16.2 ②3.4	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成 不良。色調内外面白っぽい淡灰色。ほぼ 完形。
22	杯蓋	2号窯 焼成部床	①16.45 ②2.7	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや 良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
23	杯蓋	2号窯 焼成部床	①16.8 ②3.2	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成 やや良好。色調内外面淡灰白色。完形。
24	杯蓋	2号窯 焼成部床	①16.8 ②3.75	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。色 調内面茶褐色、外面灰色。ほぼ完形。
25	杯蓋	2号窯 焼成部床	①16.6 ②2.9	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。色 調内外面灰色。完形。
26	杯蓋	2号窯 焼成部床 燃 焼 部	①16.8 ②3.5	天井部外面1/2回転ヘラ削り。他は 摩滅のため調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色 調内外面淡灰白色。残存1/2。
27	杯蓋	2号窯 燃 焼 部	①17.5 ②3.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り。他は 摩滅のため調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色 調内外面淡灰白色。ほぼ完形。
28	杯蓋	2号窯 燃 焼 部 燃 焼 部 床	①17.2 ②3.3	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成 やや不良。色調内外面淡黄灰色。完形。
29	杯蓋	2号窯 焼成部床	①17.0 ②3.45	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成 不良。色調内外面淡茶灰白色。残存1/2。
30	杯蓋	2号窯 焼成部床	①17.2 ②3.15	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面 1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、粗。焼成不良。色 調内外面淡灰色。残存1/2。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
31	杯蓋	2号窯 燃焼部	①17.2 ②3.7	天井部外面1/2回転ヘラ削り。他は摩滅のため調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面淡灰白色。ほぼ完形。
32	杯蓋	2号窯 焼成部床	①17.4 ②3.55	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。
33	杯蓋	2号窯 焼成部床	①17.2 ②3.45	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面茶褐色。完形。
34	杯蓋	2号窯 焼成部床	①17.2 ②3.9	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面淡茶灰色。ほぼ完形。
35	杯蓋	2号窯 焼成部	①17.4 ②3.5	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成不良。色調内面淡橙色、外面淡茶褐色。残存1/4。
36	杯身	2号窯 焼成部床	①(13.8) ②6.0 ③10.8 ④0.7	残存部内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成やや良好。色調内外面淡茶灰色。残存1/2。
37	杯身	2号窯 焼成部床	①(15.6) ②6.5 ③10.5 ④0.95	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/3。
38	杯身	2号窯 燃焼部	①(15.8) ②6.8 ③11.05 ④1.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成不良。色調内面黄灰色、外面明褐色。残存1/4。
39	杯身	2号窯 燃焼部床	①(16.0) ②6.1 ③10.8 ④0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面淡灰色。残存1/2。底部と体部中央に穿孔あり。
40	杯身	2号窯 燃焼部	①16.2 ②6.35 ③11.2 ④0.75	底部外面ヘラ切り後ナデ、他は摩滅のため、調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/2。
41	杯蓋	3号窯 焼成部床	①12.0 ②3.65	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面明茶褐色。ほぼ完形。
42	杯蓋	3号窯	①12.6 ②2.95	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。天井部中央、穿孔あり。
43	杯蓋	3号窯 焼成部床	①(12.4) ②4.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。
44	杯蓋	3号窯	①(13.2) ②3.8	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/2。
45	杯蓋	3号窯 焼成部床	①(13.5)	残存部外面1/2回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。口縁部付近に穿孔あり。
46	杯蓋	3号窯	①12.8 ②3.0	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面明褐色。残存1/2。
47	杯蓋	3号窯	①13.9	天井部外面1/2回転ヘラ削り、内面1/2不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/3。
48	杯身	3号窯 焼成部床	①14.3 ②4.9 ③9.1 ④1.0	底部外面ヘラ切り後ナデ、体部外面下端回転ヘラ削り？。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。
49	杯身	3号窯 焼成部床	①14.4 ②6.0 ③8.55 ④0.9	残存部回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。ほぼ完形。底部中央に穿孔あり。
50	杯身	3号窯 焼成部床	①(14.5) ②5.0 ③9.85 ④0.9	体部外面1/2回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/4。
51	杯身	3号窯 焼成部床	①15.0 ②5.05 ③8.7 ④0.8	残存部回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。ほぼ完形。底部中央に穿孔あり。
52	杯身	3号窯	①(14.8) ②5.3 ③(9.3) ④0.8	底部内面不定方向のナデ。体部内面回転ナデ。他は摩滅のため調整不明。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存1/3。
53	平瓶	3号窯	底径10.5 胴部最大径20.6	底部外面ナデ。内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存1/2。
54	平瓶	3号窯 焼成部床	底径12.0 胴部最大径19.4	底部外面ヘラでナデ、胴部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好堅緻。色調内外面灰色。ほぼ完形。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
55	杯蓋	灰 原 II	①(11.6) ②3.2	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
56	杯蓋	灰 原 II	①12.1 ②3.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
57	杯蓋	灰 原 II	①(12.2) ②4.0	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや不良。色調内外面明褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。ヘラ記号？あり。
58	杯蓋	灰 原 II	①12.8 ②3.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面黄色味がかった灰色。ほぼ完形。
59	杯蓋	灰 原 II	①(16.4)	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
60	杯蓋	灰 原 II	①10.8 ②1.2	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内面青灰色、外面灰色。完形。
61	杯蓋	灰 原 II	①10.8 ②1.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
62	杯蓋	灰 原 II	①11.2 ②1.55	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内面暗灰色、外面灰色。ほぼ完形。
63	杯蓋	灰 原 II	①14.0 ②2.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
64	杯蓋	灰 原 II	①14.2 ②2.7	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ナデ。内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
65	杯蓋	灰 原 II	①14.4 ②3.3	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ヘラナデ、内面 $\frac{2}{5}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面くすんだ黄灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
66	杯蓋	灰 原 II	①14.0 ②2.7	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のヘラナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内面灰色、外面くすんだ淡褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
67	杯蓋	灰 原 II	①14.3 ②2.75	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒多く含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡灰色。ほぼ完形。
68	杯蓋	灰 原 II	①15.2 ②2.05	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内面暗灰色、外面暗茶褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
69	杯蓋	灰 原 II	①9.6 ②2.0	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
70	杯蓋	灰 原 II	①11.2 ②1.1	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
71	杯蓋	灰 原 II	①14.8 ②3.2	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
72	杯蓋	灰 原 II	①15.0 ②3.35	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面暗灰色。ほぼ完形。
73	杯蓋	灰 原 II	①(15.6) ②3.05	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや不良。色調内外面茶灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
74	杯蓋	灰 原 II	①(15.2) ②2.9	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
75	杯蓋	灰 原 II	①(15.6) ②2.5	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面淡青灰色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
76	杯蓋	灰 原 II	①15.1 ②3.65	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
77	杯蓋	灰 原 II	①15.3 ②2.65	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面青灰色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
78	杯蓋	灰 原 II	①(16.2) ②2.85	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成不良。色調内面明褐色、外面茶灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
79	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.2) ②3.3	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面茶灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
80	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.0) ②3.8	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内面茶灰色、外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。焼け歪みあり。
81	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.0) ②2.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 粗い不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面黄灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。ヘラ記号あり。
82	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.4) ②3.6	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
83	杯蓋	灰原Ⅱ	①15.6 ②3.35	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内面淡褐色、外面暗褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
84	杯蓋	灰原Ⅱ	①15.9 ②3.05	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面淡灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
85	杯蓋	灰原Ⅱ	①16.2 ②3.3	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面灰色。ほぼ完形。
86	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.4) ②2.9	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成不良。色調内外面淡灰白色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
87	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.0) ②2.7	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面暗灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
88	杯蓋	灰原Ⅱ	①16.5 ②3.75	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。ほぼ完形。
89	杯蓋	灰原Ⅱ	①17.2 ②3.0	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面淡灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
90	杯蓋	灰原Ⅱ	①16.5 ②3.2	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内面暗褐色、外面灰色。ほぼ完形。
91	杯蓋	灰原Ⅱ	①16.6 ②3.65	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
92	杯蓋	灰原Ⅱ	①17.6 ②3.6	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り。他は摩滅のため調整不明。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
93	杯蓋	灰原Ⅱ	①(16.8) ②3.3	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
94	杯蓋	灰原Ⅱ	①17.8 ②3.8	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒多く含む、やや粗。焼成不良。色調内面淡黄灰色、外面暗黄色。ほぼ完形。
95	杯身	灰原Ⅱ	①(14.2) ②4.35 ③(10.4) ④0.9	底部ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面明褐色。残存 $\frac{1}{4}$ 。ヘラ記号あり。
96	杯身	灰原Ⅱ	①14.25 ②4.75 ③ 9.5 ④0.8	内底面不定方向のナデ。体部下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。色調内外面褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
97	杯身	灰原Ⅱ	①14.65 ②4.4 ③10.25 ④0.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。体部下端ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。底部外面ヘラ記号あり。
98	杯身	灰原Ⅱ	①(15.2) ②4.15 ③10.7 ④0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
99	杯身	灰原Ⅱ	①(9.8) ②4.1 ③7.25 ④0.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
100	杯身	灰原Ⅱ	①10.8 ②5.65 ③7.4 ④0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内面暗黒灰色、外面青灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
101	杯身	灰原Ⅱ	①(11.0) ②5.0 ③7.7 ④0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成やや不良。色調内外面淡褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
102	杯身	灰原Ⅱ	①(14.3) ②5.8 ③11.2 ④0.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
103	杯身	灰 原 II	①(14.6) ②5.9 ③10.5 ④0.65	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。焼け歪みあり。
104	杯身	灰 原 II	①14.05 ②6.0 ③9.55 ④0.65	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面茶灰色。ほぼ完形。底部外面へラ記号あり。
105	杯身	灰 原 II	①14.4 ②5.9 ③9.8 ④0.7	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
106	杯身	灰 原 II	①(14.2) ②5.7 ③(9.2) ④0.8	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{4}{5}$ 。
107	杯身	灰 原 II	①14.35 ②6.8 ③9.9 ④0.7	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面灰色。残存 $\frac{4}{5}$ 。
108	杯身	灰 原 II	①(14.3) ②6.45 ③(10.5) ④0.7	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
109	杯身	灰 原 II	①(14.4) ②6.2 ③(9.3) ④0.75	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成不良。色調内外面淡茶灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
110	杯身	灰 原 II	①14.6 ②6.05 ③10.65 ④0.65	底部外面へラ切り後粗いナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡茶灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
111	杯身	灰 原 II	①(14.6) ②6.35 ③(10.0) ④0.8	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面淡青灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
112	杯身	灰 原 II	①(14.9) ②6.55 ③(10.5) ④1.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
113	杯身	灰 原 II	①(16.5) ②6.1 ③10.9 ④0.9	底部外面へラ切り後粗いナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内面暗灰色、外面背灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
114	杯身	灰 原 II	①(15.8) ②6.0 ③10.4 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成やや不良。色調内外面淡茶灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
115	杯身	灰 原 II	①(16.0) ②6.7 ③11.2 ④0.9	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
116	杯身	灰 原 II	①(16.0) ④7.0 ③11.1 ④0.85	底部外面へラ切り後ナデ、他は不定方向のナデ。	胎土細粒わずかに含む、粗。焼成不良。色調内外面黄灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
117	杯身	灰 原 II	①(16.1) ②7.0 ③(10.9) ④1.1	摩滅のため調整不明。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
118	杯	灰 原 II	①(12.4) ②4.4	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
119	杯	灰 原 II	①(13.0) ②5.15	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
120	杯	灰 原 II	①(13.0) ②(4.1)	底部外面へラ切り後ナデ、底部と体部の境一部ナデ。内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
121	杯	灰 原 II	①(13.2) ②4.2	底部外面へラ切り後不定方向のナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面暗褐色。残存 $\frac{1}{3}$ 。
122	杯	灰 原 II	①(14.0)	底部外面へラ切り後ナデ、底部と体部の境一部ナデ。内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面茶灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
123	杯	灰 原 II	①(14.0) ②4.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
124	杯	灰 原 II	①14.2 ②5.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内面暗茶褐色、外面灰色。ほぼ完形。
125	杯	灰 原 II	①(14.1) ②3.75	底部外面へラ切り後へラナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。焼け歪みあり。
126	高杯	灰 原 II	脚端径10.3	杯部内面ナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存脚部 $\frac{1}{2}$ 。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
127	高杯	灰 原 II		杯体部外面下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
128	高杯	灰 原 II	①(16.4)	杯体部外面下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存杯部 $\frac{1}{2}$ 。
129	鉢	灰 原 II	①(16.2)	体部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
130	長頸壺	灰 原 II	①10.5	口頸部内外面回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。口頸部のみ残存。
131	長頸壺	灰 原 II	①(12.6)	口頸部内外面回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。口頸部のみ残存。
132	長頸壺	灰 原 II	③11.3 ④0.75 胴部最大径(19.5)	胴部外面下端回転ヘラ削り。底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存胴部から底部にかけて $\frac{1}{2}$ 。ヘラ記号あり。
133	鉢	灰 原 II	①(28.0) ②(18.3)	外面下端回転ヘラ削り、他は、斜め方向にナデ後タテ方向のナデ。内面回転ナデ後タテ方向のナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面暗灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
134	甕	灰 原 II	①(22.8) 胴部最大径(36.0)	口縁部内外面回転ナデ。胴部外面格子目タタキ、内面円心円文タタキ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面明茶灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
135	杯蓋	S K 02	①16.3 ②2.3	天井部外面 $\frac{1}{2}$ ヘラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや不良。色調内外面茶灰色。ほぼ完形。
136	杯身	S K 02	①(15.2) ②5.7 ③10.45 ④0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
137	杯身	S K 02	①(15.3) ②5.35 ③(10.1) ④0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色調内外面黒色。残存 $\frac{1}{4}$ 。底部外面ヘラ記号あり。

2 Y地点の調査

Y地点は標高103mの低い山頂の周辺である（図版2(4)）。X地点の北側にあり、直線距離にして約150m離れている。東側は牛頸川をはさんでハセムシ窯跡群を望む。

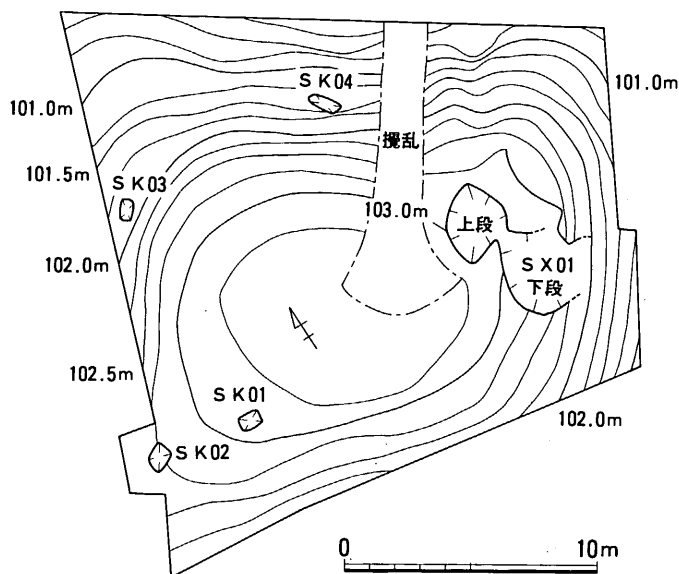
検出した遺構は性格不明の土坑（S X 01）と、火を焚いた小土坑（S K 01～S K 04）である（第17図）。

(1) 土坑

① S X 01（図版3(1)・(2)・(3)、第18図）

標高101～102mの間に位置する不整形の遺構で、大きくくびれる部分がある。このくびれを境にして、便宜的に北側を上段、南側を下段とした。

上段の壁面は不明瞭で緩やかである。下段の東側は山の斜面の傾斜がきつくなって流失しているため全形をつかむことができない。下段の掘り方は2段になっており、2段めの壁はシャープで明瞭である。また底面も平坦である。底面には薄い炭の層が広がり、北側の壁は熱を受け赤変しているためここで火を焚いたことが知れる。上段、下段とも柱が立つようなピットは見られなかった。



第17図 Y地点地形図 (1/300)

上段及び下段からは須恵器、土師器、瓦が出土しているが、完形のものも見られ、瓦には積み重ねた状況で出土したものもある。流れ込んで埋まったものではなく、故意に集められた様相を呈す遺物の一群である。

②上段の出土遺物 (第19図)

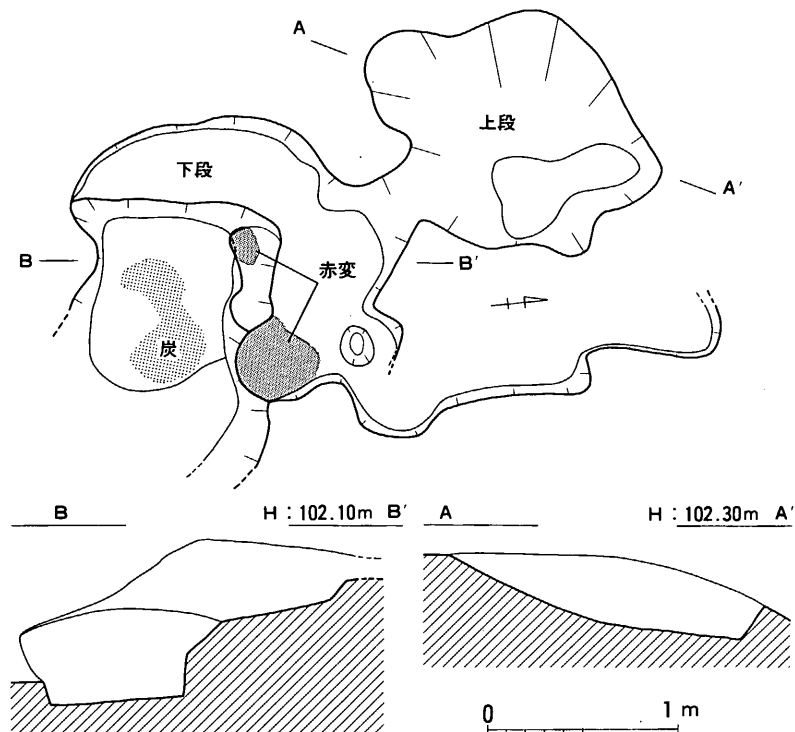
出土したのは須恵器の蓋杯、杯、短頸壺と瓦である。瓦については別項で解説する。

須恵器

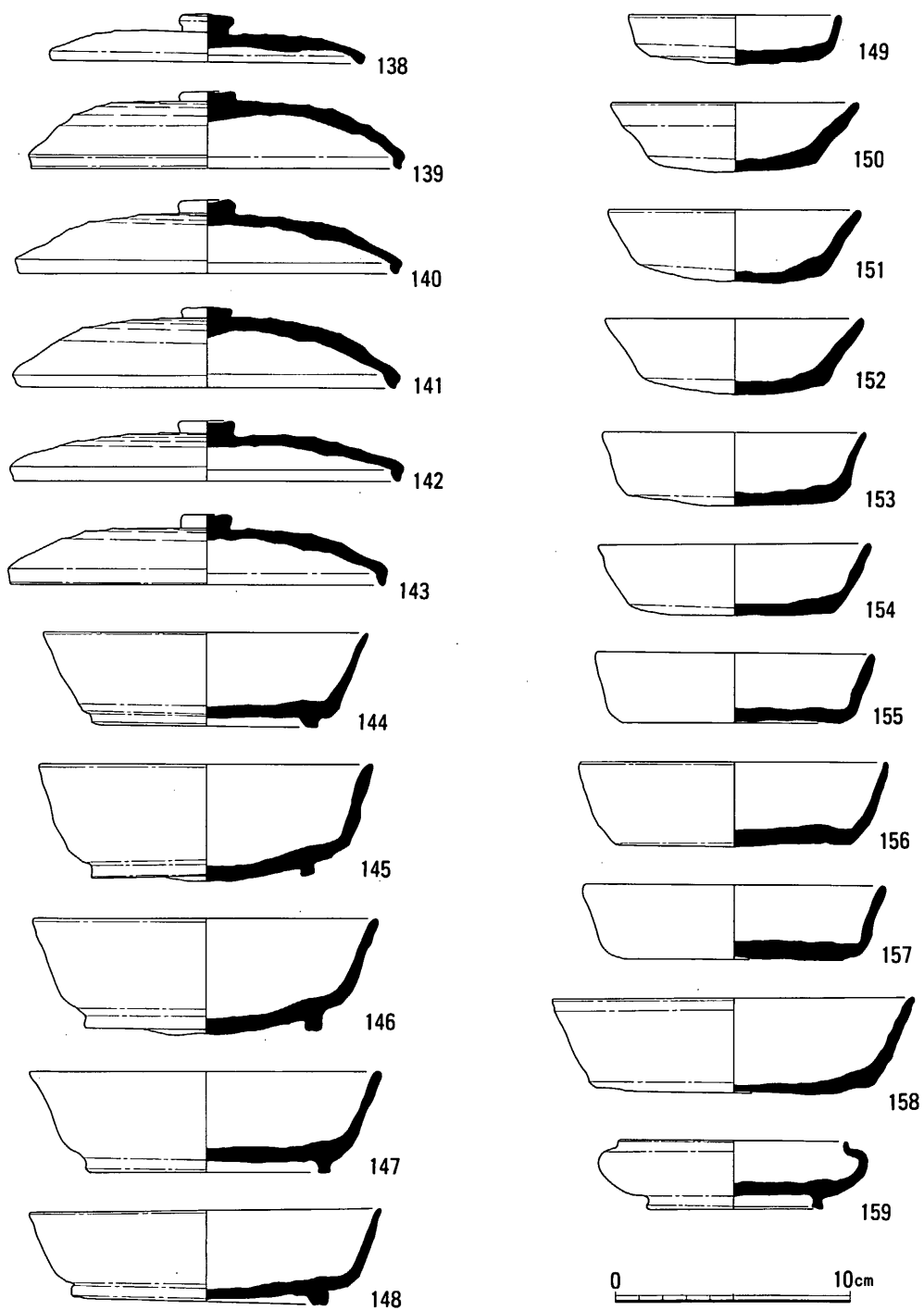
蓋杯・蓋 (138~143) すべてつまみが付くがほとんど扁平となる。全体的に丸味を帯び、口縁部

は138を除いて折れ曲げた線が明瞭である。天井部肩部にヘラケズリが見られる。口径は138を除いて16cm前後である。

蓋杯・杯 (144~148) 145がやや丸味を持ち、高い感じを持たせるものであるが、その他はほとんど同じ形態である。高台は低く、外側へ踏ん張らない。体部は横ナデを行い、底部外面はヘラ切り後に軽くナデている。



第18図 S X 01実測図 (1/40)



第19図 S X 01出土須恵器実測図 (1/3)

杯 (149～158) 口径に開きがあるが (9.1～15.4cm)、器高は149・158を除いてほとんどが同じである (約3 cm)。体部が外上方へ開くが、150～152はその開きが大きい。また小型のものは作りが粗雑である。

短頸壺 (159) 扁球形の胴部に低い高台が付き、口頸部がわずかに立ち上がるものである。

⑥下段の出土遺物 (第20図)

須恵器の蓋杯と長頸壺、土師器の高杯と甕、瓦が出土した。瓦については別項で述べる。

須恵器

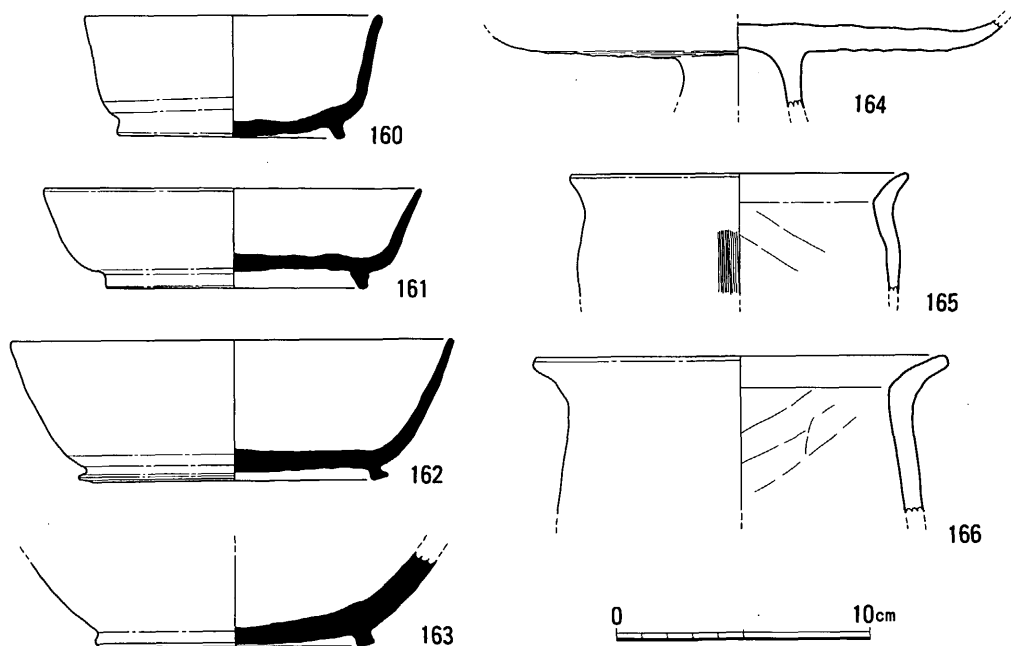
蓋杯・杯 (160～162) 160は小型でやや深めのもので、161は浅めである。162は口径19.6cmを測り、大型で体部も丸味を持つものである。

長頸壺 (163) 胴部下半の破片で、高台は低い。胴部は横ナデ、底部内面はナデを行う。

土師器

高杯 (164) 杯部口縁と脚端部を欠く。杯底部外面はヘラケズリを行っており、手法的には須恵器かと思わせる。その他は横ナデを施す。

甕 (165・166) 小破片であるが、いずれも口径が胴部最大径を上まわるものと思われる。165の外面にはハケ目が見られるが、166はヘラでナデたような痕跡がある。内面はヘラケズリを行う。



第20図 S X 01出土須恵器・土師器実測図(1/3)

② S K 01 (図版 3 (4)、第21図)

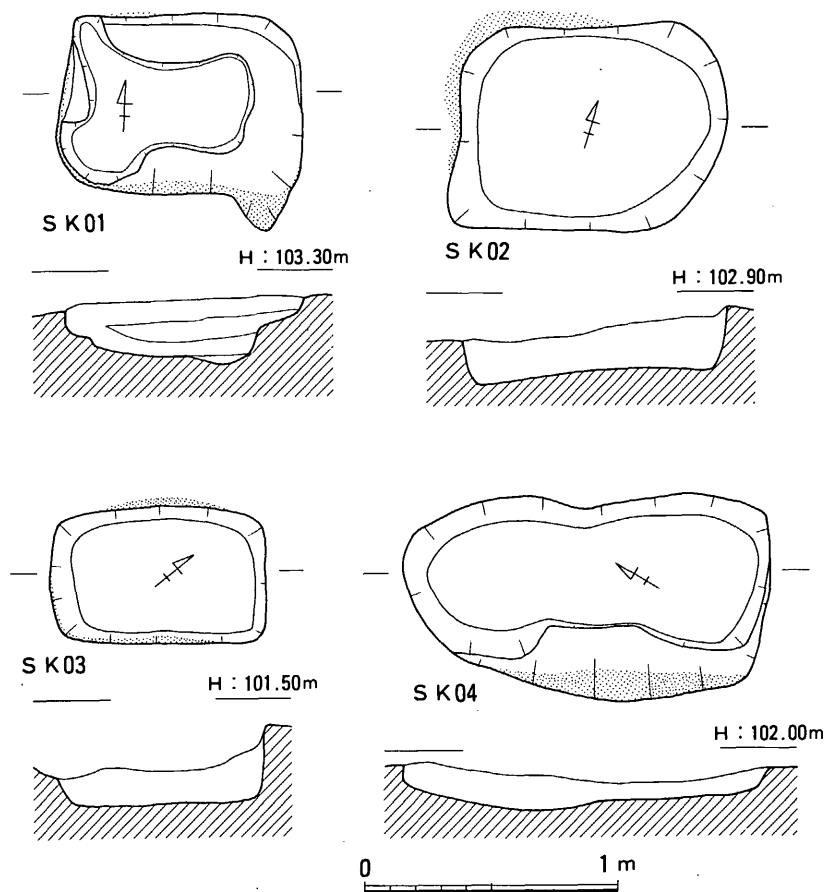
0.7×0.95mのほぼ方形の土坑である。2段掘りで、最も深い所で深さは25cmある。埋土には炭を含み、東側以外の壁面は熱によって赤変している。底面から須恵器の蓋が出土している。

出土遺物 (第20図167)

蓋杯・蓋 (167) かえりのないもので、中央がやや膨らむつまみを付けるものである。全体的に丸味を帯びる。

③ S K 02 (第21図)

0.8×1mの隅の丸い方形の土坑である。深さ20cmを測る。埋土には炭を含み、南側と北西側の壁は熱によって赤変している。出土遺物には須恵器と土師器の小片があるが図示できない。



第21図 S K 01～S K 04実測図 (1/30)

④ S K 03 (第21図)

0.5×0.85mのほぼ方形の土坑である。深さは10cmで埋土には炭を含む。東側と西側の壁は熱によって赤変している。出土遺物には須恵器の小片があるがこれも図示できない。

⑤ S K 04 (第21図)

0.8×1.4mの土坑で、深さは15cmを測る。埋土には炭を含み、西側の壁は赤変しているが、他の土坑に比べると焼き締まっていない。出土遺物はなかった。

(2) 遺構に伴わない遺物 (第22・23図)

試掘調査の時と遺構検出の段階でかなりの遺物が遺構に伴わずに出土している。特に S X 01の近くに多く、本来 S X 01に関係するものと思われる。須恵器の蓋杯・杯・皿、土師器の皿・高杯・甕・甑・瓦がある。瓦は次項で触れる。

須恵器

蓋杯・蓋 (168～171) つまみのないもの (168・169) とつまみの付くもの (170・171) がある。しかし、171のつまみはほとんど扁平で、形式的に付くだけである。168を除いて天井部をヘラケズリする。

蓋杯・杯 (172～176) 体部に丸味を持つもの (172・173)、外反するもの (174)、体部下半で屈曲してほぼ直線的に伸びるもの (175・176) がある。深いものはない。

杯 (177～188) 口径は8.2～13.8cmまでのものが見られる。小型のものに粗雑なものが多い。

皿 (189) 底部と体部の境が不明瞭なものである。

土師器

皿 (190・191) 底部と体部の境が不明瞭なものである。磨滅のため調整が不明である。

高杯 (192) 小型で浅い杯部が乗るものである。

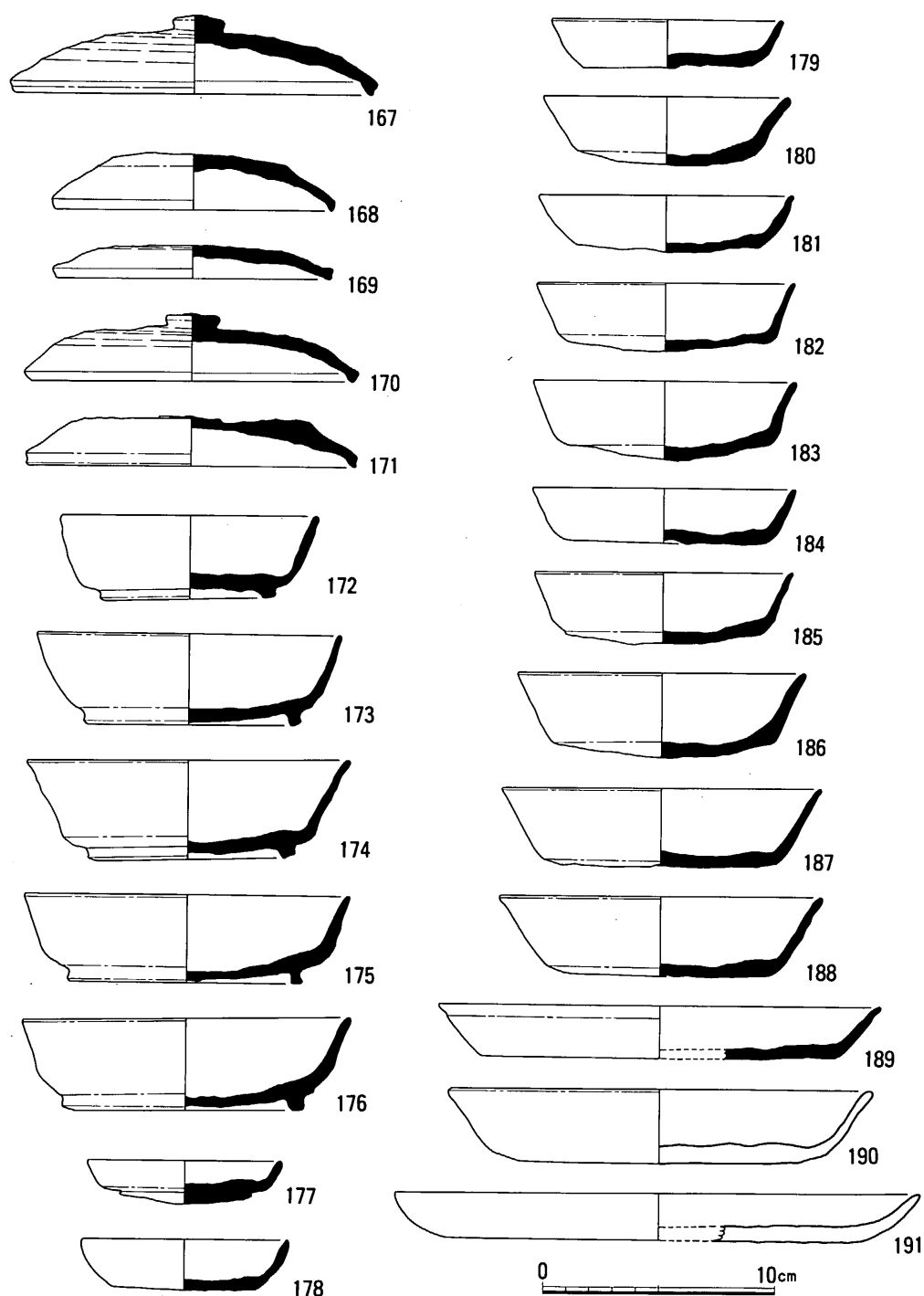
甕 (193～195) いずれも丸底で、口径が胴部最大径を上回るものである。口縁部内面及び胴部外面にはハケ目、胴部内面にはヘラケズリの痕が見られる。

甑 (196) 下半部の小破片のため詳しいことが不明であるが、割れ口から見て1本の棧が付くものと思われる。外面は横方向に全体にわたって砂の動きが見られ、ケズリを行ったと見られる。それに対して内面は平滑で、ナデを行っている。

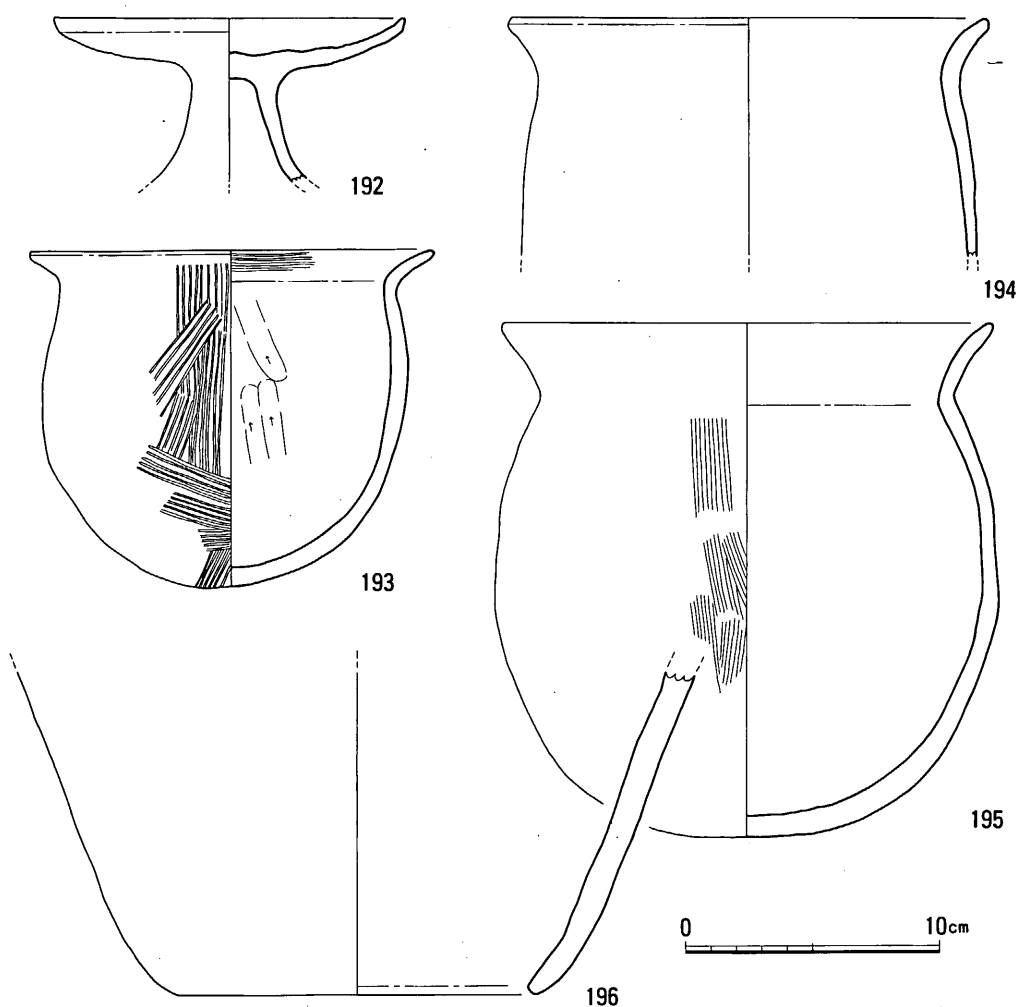
(3) 瓦 (第24・25図)

S X 01から瓦の出土を見ているが、試掘と遺構検出に際しても出土しているので一括して記したい。出土量は整理箱3箱分で、熨斗瓦1点を除いてすべて平瓦である。

平瓦 (197～202) 平瓦は多く出土しているが、手法的にはそれほど変わらない。凸面には



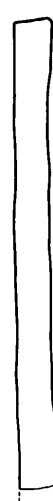
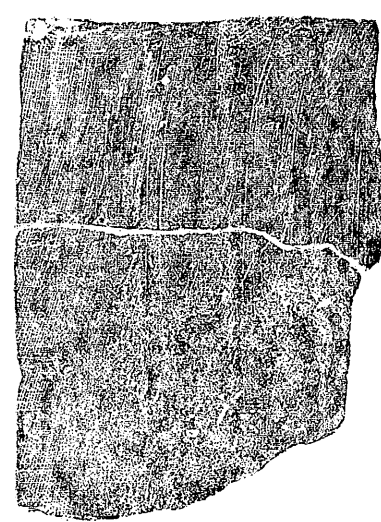
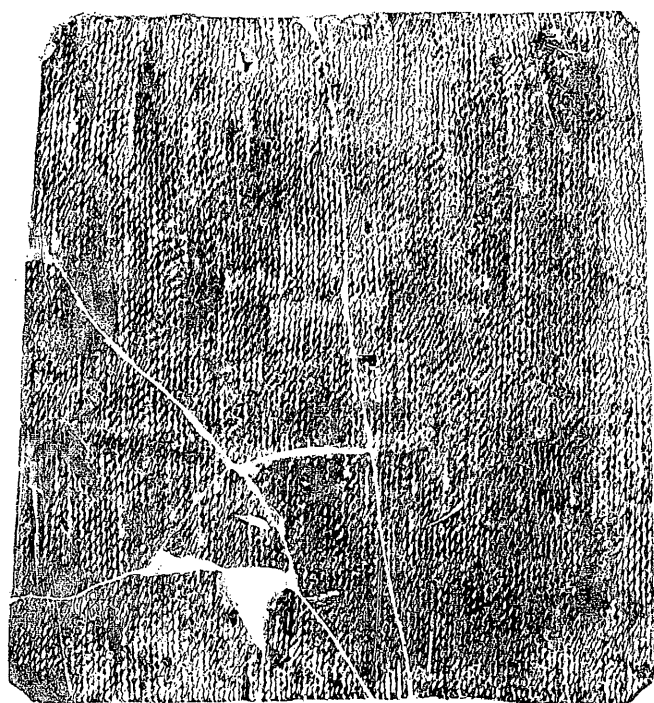
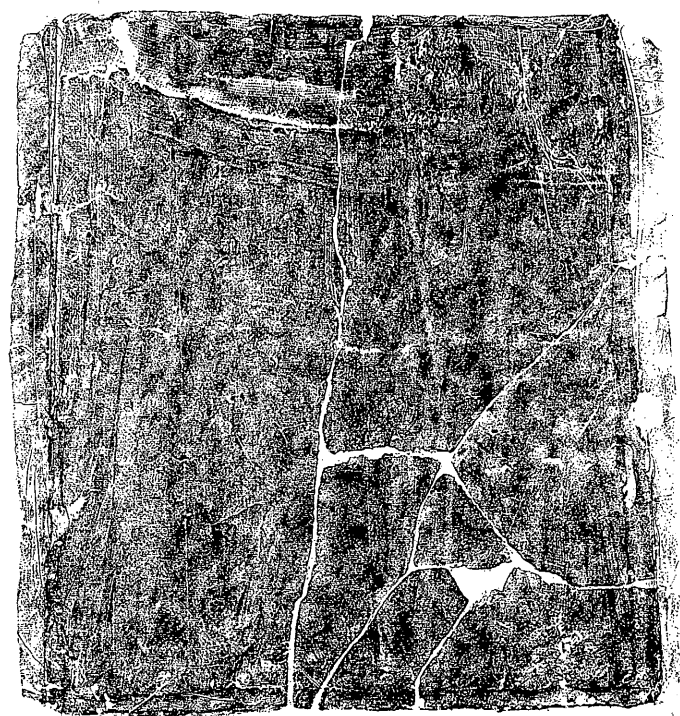
第22図 Y地点出土須恵器・土師器実測図 (1/3)



第23図 Y地点出土土師器実測図(1/3)

縄目のタタキが見られる。凹面は平滑のもの(197・198・201)と布目の残るもの(199・200)、模骨痕の明瞭なもの(198~200)とそうでないものが見られる。これらのことから基本的にはすべて桶巻き技法で製作されたもので、模骨痕が残るものはナデの施し方が弱かったもの、布目の残るものはナデを行わなかったものと考えられる。上下両端内面は面取りされている。側辺については一部凸面側にヘラケズリするものがあるが、全体としては面取りされていない。

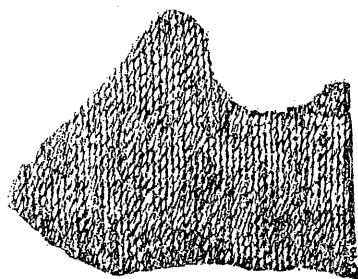
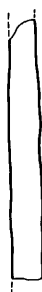
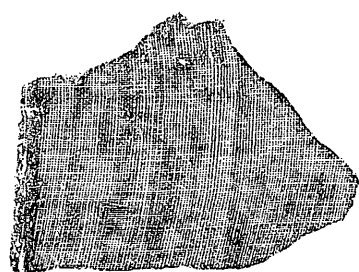
熨斗瓦(202) 1点出土している。上・下両端を欠くが、幅10cm、残存長26cmを測る。両側辺をヘラ切りしている。凸面は縄目のタタキ、凹面は模骨痕と布目が残る。模骨の幅は約4.5cmである。灰色または淡灰褐色を呈し、焼成はやや不良で柔かい。



198



197



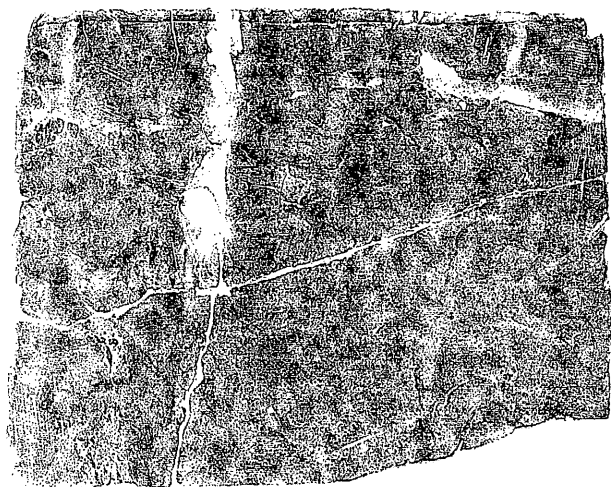
199



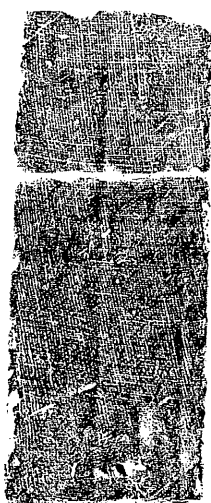
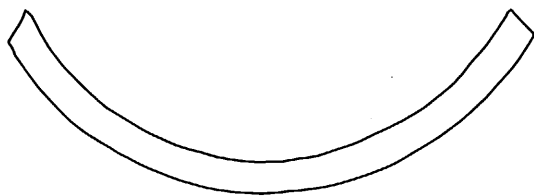
200

0 10cm

第24图 Y地点出土瓦実測图① (1/4)



201



202

0 10cm

第25図 Y地点出土瓦実測図② (1/4)

第2表 Y地点出土須恵器・土師器観察表

法量の()は推定値、
復元値を示す。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径 ④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
138	杯蓋	S X 01 上 段	①13.3 ②2.1	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面明褐色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
139	杯蓋	S X 01 上 段	①15.6 ②3.3	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや不良。色調内外面淡黄灰色。完形。
140	杯蓋	S X 01 上 段	①16.1 ②3.05	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面淡茶灰色。完形。
141	杯蓋	S X 01 上 段	①15.8 ②3.45	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡黄灰色。ほぼ完形。
142	杯蓋	S X 01 上 段	①16.4 ②2.6	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内面茶灰色、外面灰色。ほぼ完形。
143	杯蓋	S X 01 上 段	①15.9 ②3.0	天井部外面に回転ヘラ削り、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面淡茶灰色。ほぼ完形。
144	杯身	S X 01 上 段	①13.85 ②4.05 ③ 9.65 ④0.4	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。高台端面焼成後削ったようになっている。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
145	杯身	S X 01 上 段	①14.2 ②5.0 ③ 9.5 ②0.55	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。完形。
146	杯身	S X 01 上 段	①14.5 ②5.0 ③10.1 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。完形。
147	杯身	S X 01 上 段	①14.8 ②4.35 ③10.4 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。完形。
148	杯身	S X 01 上 段	①15.0 ②4.15 ③10.9 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面淡茶灰色。完形。
149	杯	S X 01 上 段	①9.05 ②2.1	底部外面へラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。完形。
150	杯	S X 01 上 段	①10.6 ②3.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。ほぼ完形。
151	杯	S X 01 上 段	①10.8 ②3.1	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。ほぼ完形。
152	杯	S X 01 上 段	①11.0 ②3.25	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。ほぼ完形。
153	杯	S X 01 上 段	①(11.3) ②3.2	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒多く含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
154	杯	S X 01 上 段	①11.6 ②2.1	底部外面へラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
155	杯	S X 01 上 段	①11.8 ②3.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面中央ナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡褐色。完形。
156	杯	S X 01 上 段	①(13.2) ②3.55	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
157	杯	S X 01 上 段	①(12.8) ②3.2	底部外面へラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
158	杯	S X 01 上 段	①15.4 ②4.1	底部外面へラ切り後ナデ、底部と体部の境一部ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面青灰色。ほぼ完形。
159	壺	S X 01 上 段	①9.6 ②3.0 ③7.5 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面に不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面淡青灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
160	杯身	S X 01 下 段	①11.7 ②4.9 ③ 9.0 ④0.7	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内面暗青灰色、外面青灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。
161	杯身	S X 01 下 段	①14.9 ②4.1 ③10.3 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{3}{4}$ 。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
162	杯身	S X 01 下 段	①17.6 ②5.6 ③12.2 ④0.5	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成やや良好。色調内外面暗灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
163	長頸壺	S X 01 下 段	③11.0 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。残存底部 $\frac{1}{4}$ 。
164	高杯	S X 01 下 段		杯体部外面 $\frac{1}{2}$ 回転へラ削り。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや不良。色調内外面明褐色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
165	甕	S X 01 下 段	①(13.4)	口縁部横ナデ、胴部内面へラ削り、外面細い縦ハケ。	胎土砂粒やや含む。焼成良好。色調内外面褐色。口縁部小片。
166	甕	S X 01 下 段	①(16.3)	口縁部横ナデ、胴部内面へラ削り、外面へラナデ？	胎土砂粒やや含む。焼成良好。色調内外面暗茶灰色。口縁から胴部にかけて小片。
167	杯蓋	S K 01	①15.4 ②3.45	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転へラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡灰白色。完形。
168	杯蓋	遺構検出面	①12.0 ②2.5	天井部外面 $\frac{1}{2}$ へラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡褐色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
169	杯蓋	遺構検出面	①11.8 ②1.4	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転へラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面明褐色。ほぼ完形。
170	杯蓋	遺構検出面	①13.8 ②2.9	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転へラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。完形。
171	杯蓋	遺構検出面	①14.1 ②2.15	天井部外面 $\frac{1}{2}$ 回転へラ削り、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。完形。
172	杯身	遺構検出面	①(11.2) ②3.7 ③7.6 ④0.5	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
173	杯身	遺構検出面	①13.0 ②3.95 ③ 9.9 ④0.45	底部外面へラ切り後削り？、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
174	杯身	遺構検出面	①13.9 ②4.3 ③8.95 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。完形。灰かぶり。
175	杯身	遺構検出面	①14.1 ②3.85 ③10.2 ④0.5	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
176	杯身	遺構検出面	①14.0 ②4.0 ③10.45 ④0.6	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。完形。
177	杯	遺構検出面	①8.2 ②1.9	底部外面へラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成不良。色調内外面明褐色。ほぼ完形。
178	杯	遺構検出面	①8.8 ②2.2	底部外面へラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
179	杯	遺構検出面	①9.9 ②2.1	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成やや不良。色調内外面黄灰色。ほぼ完形。
180	杯	遺構検出面	①10.7 ②3.0	底部外面へラ切り後ナデ、他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや不良。色調内外面淡褐色。ほぼ完形。
181	杯	遺構検出面	①10.8 ②2.5	底部外面へラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。ほぼ完形。
182	杯	遺構検出面	①11.0 ②3.0	底部外面へラ切り後ナデ、内面 $\frac{1}{2}$ 不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。完形。
183	杯	遺構検出面	①11.4 ②3.55	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面茶褐色。完形。焼け至みあり。
184	杯	遺構検出面	①11.2 ②2.4	底部外面へラ切り後ナデ、内面中央ナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
185	杯	遺構検出面	①11.2 ②3.1	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。

遺物 番号	器 種	出土地点	法量 ①口径 ②器高 (cm) ③高台径④高台高	手 法 の 特 徴	備 考
186	杯	遺構検出面	①12.4 ②3.7	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや良好。焼成やや粗。色調内外面灰色。完形。
187	杯	遺構検出面	①13.85 ②3.45	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや多く含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面茶灰色。ほぼ完形。
188	杯	遺構検出面	①13.8 ②3.5	底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面茶褐色。ほぼ完形。
189	皿	遺構検出面	①19.0 ②2.3	残存部底部外面へラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。	胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面淡青灰色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
190	皿	遺構検出面	①(18.4) ②3.25	底部へラ切り、内面摩滅のため調整不明。他は横ナデ。	胎土砂粒やや含む。焼成良好。色調内外面明褐色。残存 $\frac{1}{2}$ 。
191	皿	遺構検出面	①22.7	底部へラ削り、内面摩滅のため調整不明。他は横ナデ。	胎土細粒やや含む、焼成良好。色調内外面明褐色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
192	高杯	遺構検出面	①13.8	口縁端部横ナデ。脚部内面横ナデ。他は摩滅のため調整不明。	胎土細粒やや含む。焼成良好。色調内外面明褐色。残存 $\frac{2}{3}$ 。
193	甗	遺構検出面	①15.9 ②13.4 胴部最大径16.45	胴部外面縦及び斜めのハケ、内面へラ削り。口縁部内面横ハケ、外面横ナデ。	胎土砂粒多く含む。焼成良好。色調内外面淡茶灰色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
194	甗	遺構検出面	①(19.0)	胴部外面摩滅のため調整不明、内面へラ削り。口縁部内面横ハケ。	胎土砂粒多く含む。焼成良好。色調内面淡橙色、外面淡褐色。残存口縁から胴部にかけて $\frac{1}{4}$ 。
195	甗	遺構検出面	①(19.4) ②20.4 胴部最大径(20.0)	胴部外面縦ハケ、内面ナデ。口縁部内面横ハケ、外面横ナデ。	胎土砂粒多く含む。焼成良好。色調内面淡褐色、外面明褐色。残存 $\frac{1}{4}$ 。
196	器種不明	遺構検出面		残存部内面へラナデ、外面横方向のへラ削り。	胎土砂粒多く含む。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。残存底部 $\frac{1}{4}$ 。

第3表 Y地点出土瓦観察表

遺物 番号	種 類	質	凹 面 調 整	模 骨 痕	凸 面 調 整	側 面 面 取 り	厚 さ (cm)
197	平 瓦	須 恵 質	布目の上ナデ		縄目タタキ	○	1.8~2.2
198	平 瓦	土 師 質	布目の上ナデ	○	縄目タタキ		1.9~2.1
199	平 瓦	土 師 質	布目	○	縄目タタキ	○	1.5~1.7
200	平 瓦	土 師 質	布目の上ナデ	○	縄目タタキ		1.7~2.3
201	平 瓦	須 恵 質	布目の上ナデ		縄目タタキ		1.6~2.0
202	熨斗瓦	土 師 質	布目	○	縄目タタキ		2.1~2.7

III まとめ

出土遺物からみた年代について触れ、まとめたい。

X 地点

1～3号窯出土須恵器については次のことがいえる。

まず、1号窯出土須恵器では、蓋杯の蓋はすべてかえりの消失したもので、小型のものが少量ある他はすべて16cm前後の口径を持つものである。また口縁端部は断面三角形をなすものもあるが、折り曲げの顕著なものが多い。杯は高台が付くものと付かないものがあるが、付くものは高台が高く、外へふんばる。また、器高も高い。

2号窯出土の蓋の場合は1号窯出土の蓋に比べて口縁部の折り曲げが顕著でなく、断面三角形を呈するものが多い。口径は15.2cm～17.4cmに収まる。杯は1号窯のものと同様形状をして、深い感じのものであるが、高台の高さがやや低くなり、シャープさにも欠けている。

3号窯出土須恵器について見ると、蓋にはかえりを持つものと持たないものがあるが、全体的に丸味を持ち、つまみも高い。かえりを持つものの口径が14.8～17cm、持たないものが12.8～13.9cmと口径に違いがある。杯は体部が屈曲するという特徴を持つ。高台は高い。

以上のことから、蓋については、かえりのあるものからないものへ、また、ないものでも、口縁部の折り曲げが顕著なものからそうでないものへという変化を見てとれる。杯についても高台が高いものから低いものへと変化している。よって、出土須恵器の先後関係は、3号窯→1号窯→2号窯と考えられる。これは遺構の切り合いから得られた3号窯→2号窯の先後関係とも矛盾しない。

年代的には、後述するY地点出土須恵器が8世紀中頃と考えられるが、それに先行するものと思われるので、7世紀後半～8世紀前半と考えられる。

Y 地点

X地点出土須恵器と比較した場合、杯の違いが眼につく。すなわち、器高も高台も低く比較的浅い感じを持たせる。SX01出土遺物もその他の出土遺物も大宰府SD2340出土遺物とほぼ同時期として大過ないと考えられる。SD2340出土遺物は天平6年(734年)と記した木簡の同伴で有名であるが、全体としては8世紀中頃と考えられているので、Y地点出土須恵器もそう考えられる。

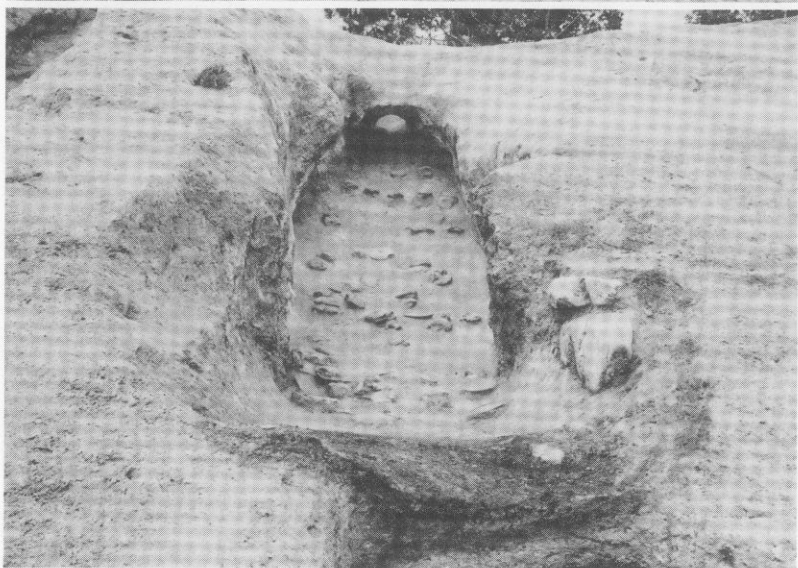
〈参考文献〉『大宰府史跡』九州歴史資料館、1984・1985

版 図

(3)
1
号
窯



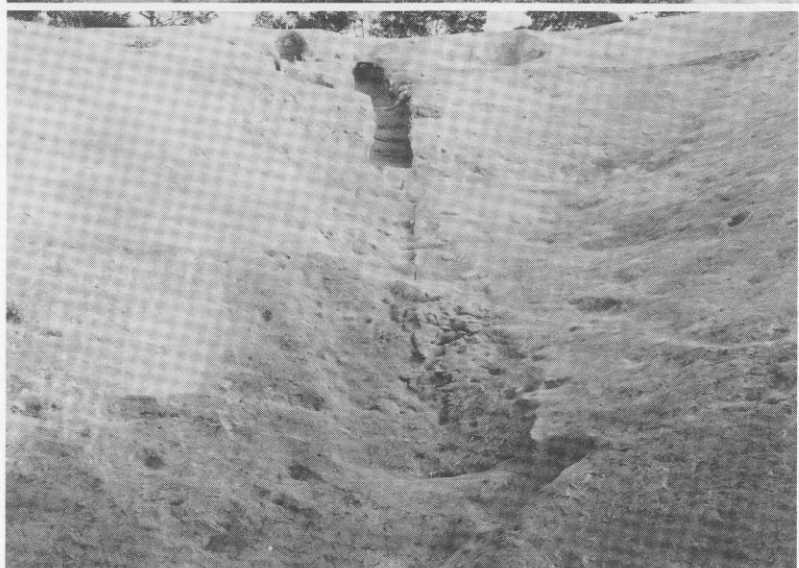
(4)
2
号
窯



(1)
X
地
点
遠
景



(2)
X
地
点
全
景



(1)
2号窯焼成部須恵器出土状況



(2)
3号窯



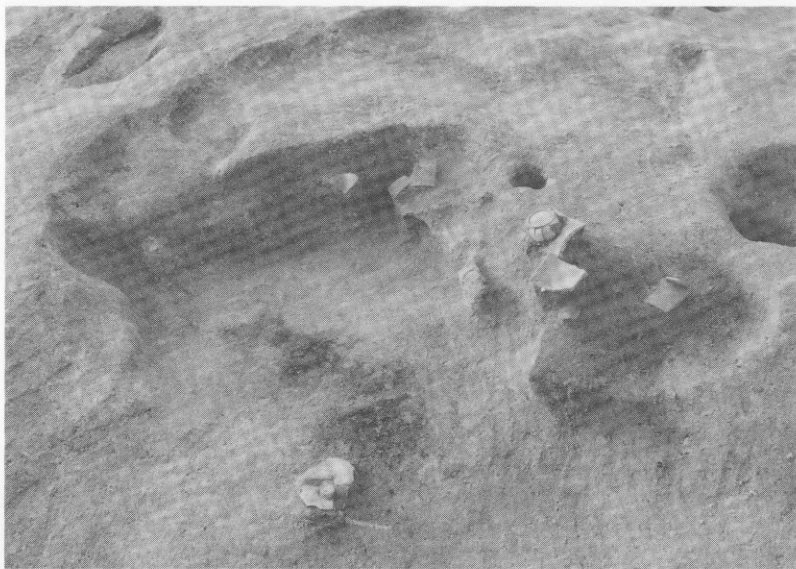
(3)
灰原Ⅱ断面



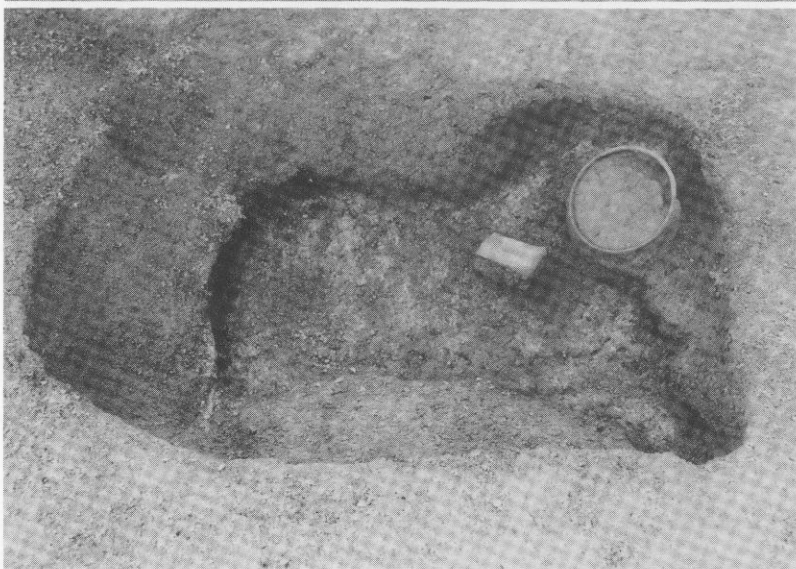
(4)
Y地点遠景



(3)
S
X
01
下
段



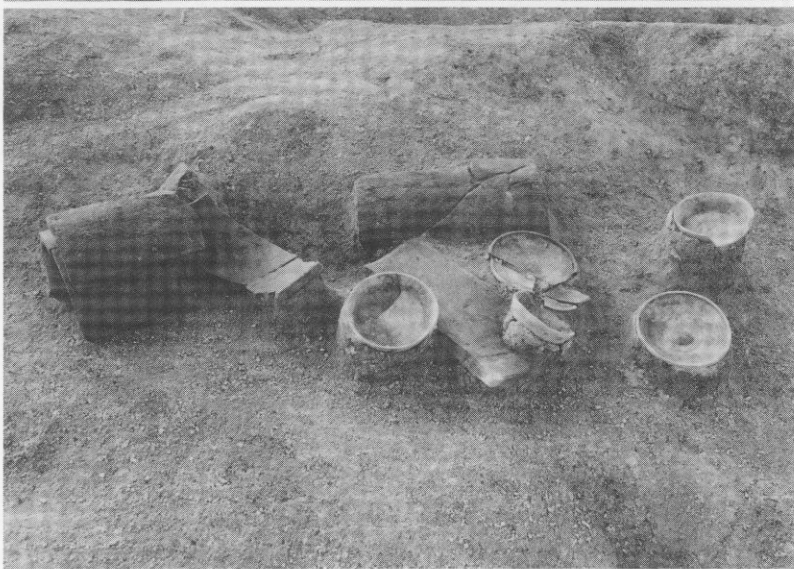
(4)
Y
地
点
S
K
01

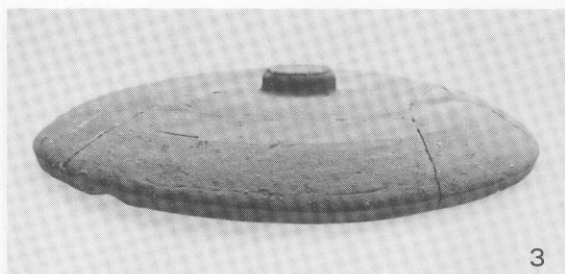


(1)
S
X
01

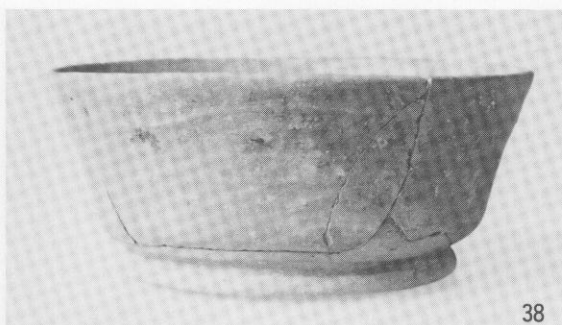


(2)
S
X
01
上
段
の
遺
物
出
土
状
況

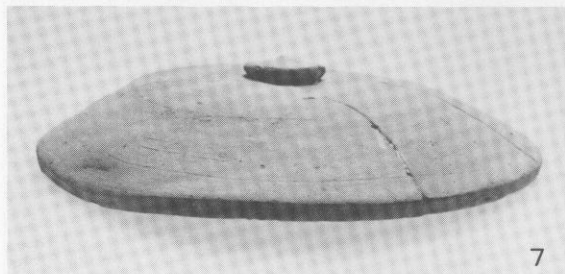




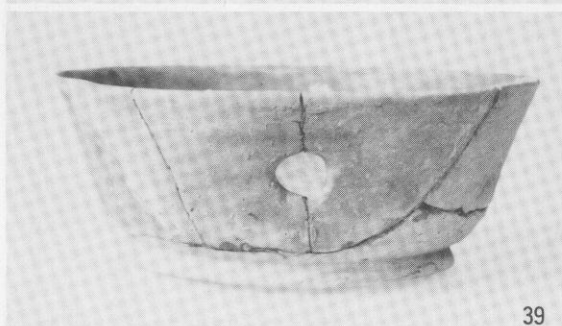
3



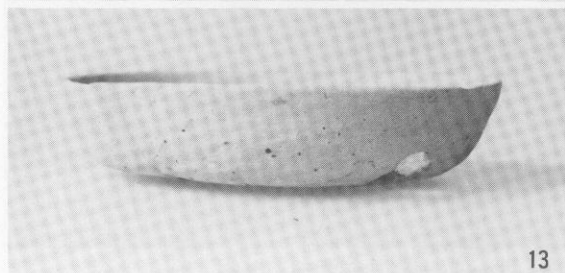
38



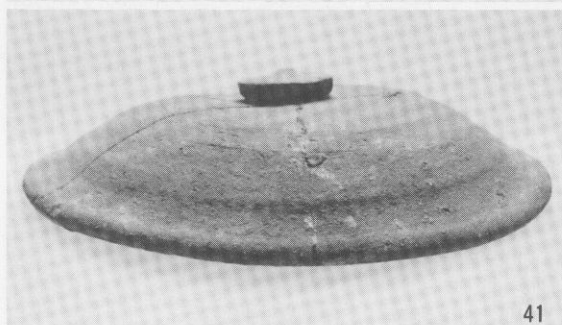
7



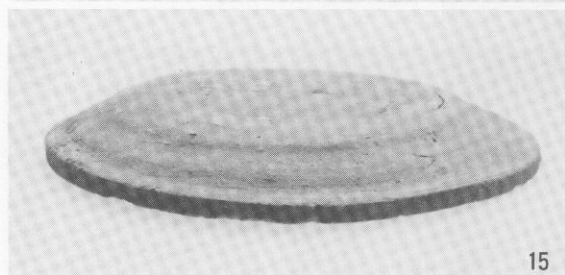
39



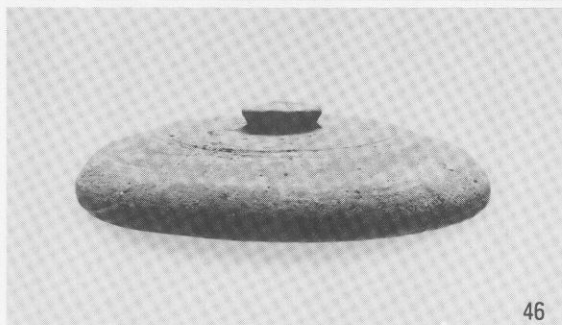
13



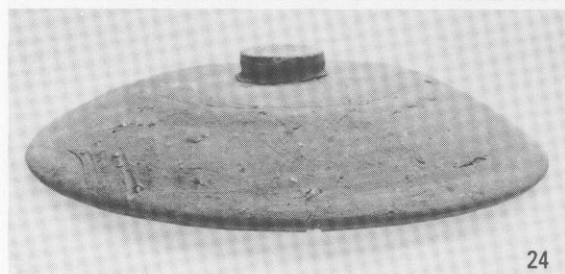
41



15



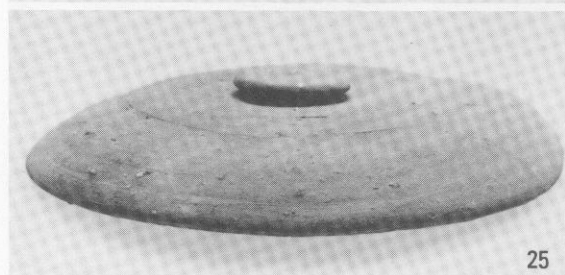
46



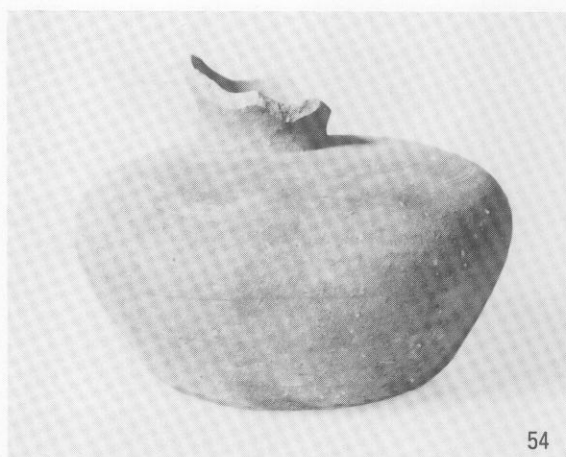
24



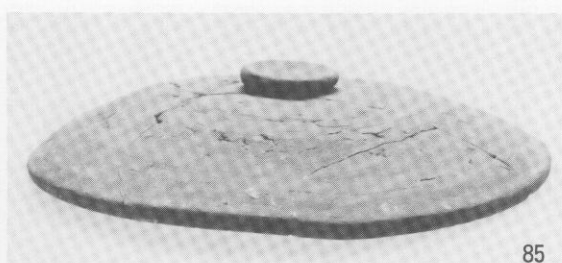
49



25



54



85



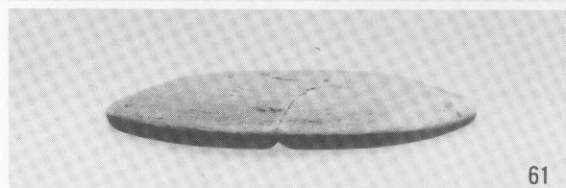
97



56



100



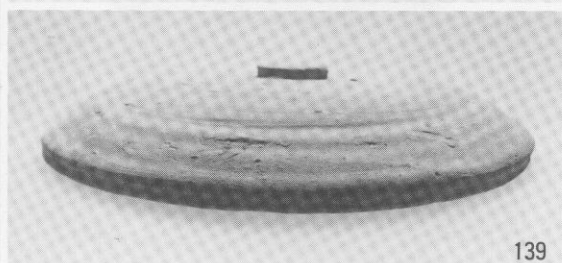
61



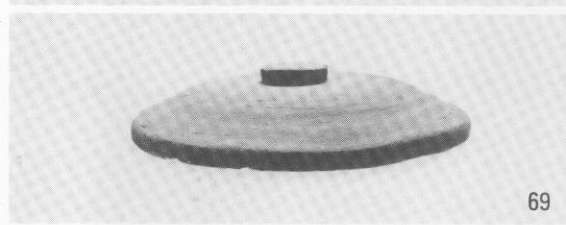
127



65



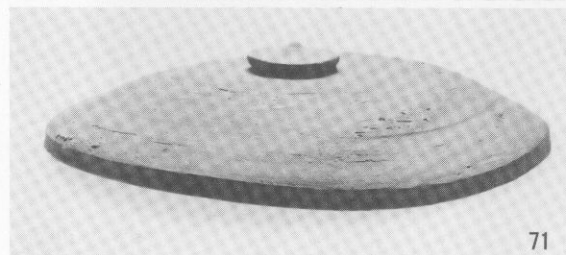
139



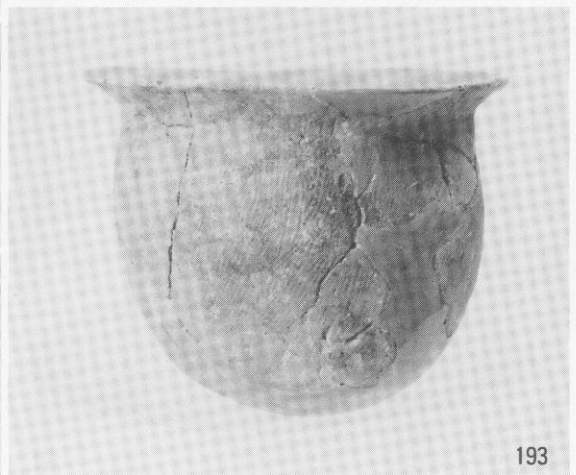
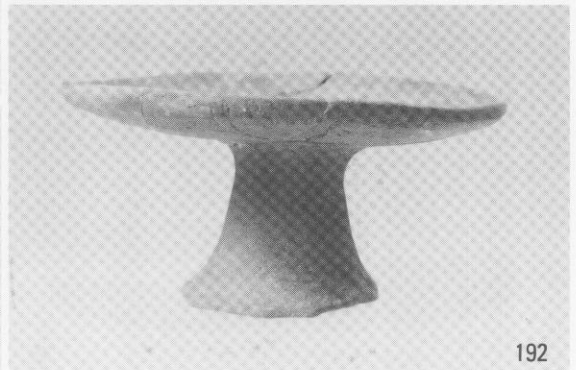
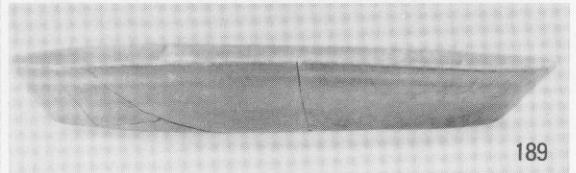
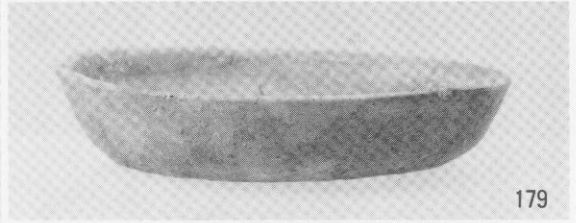
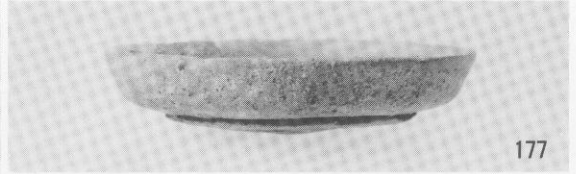
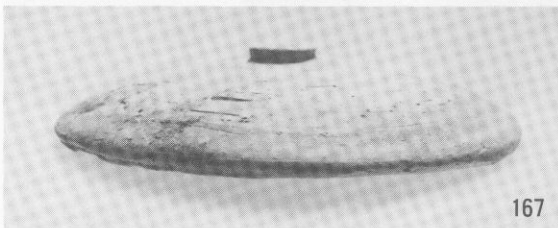
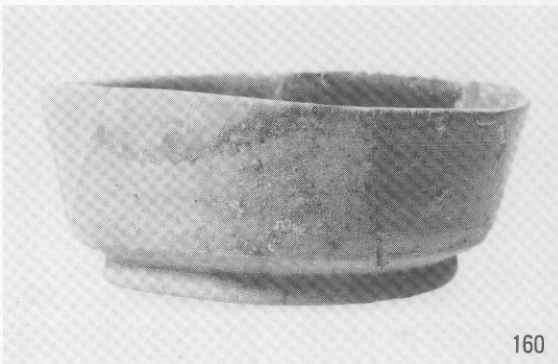
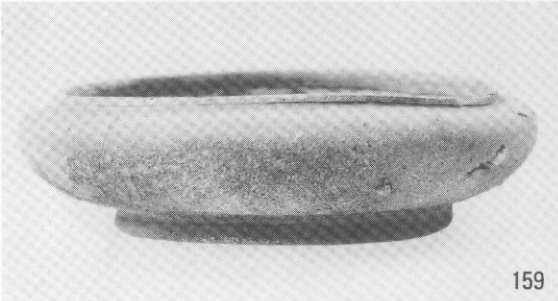
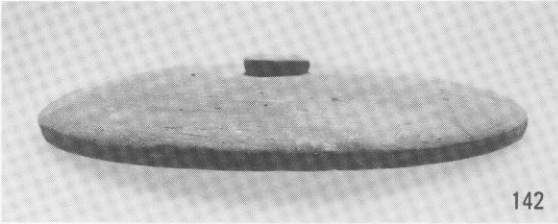
69

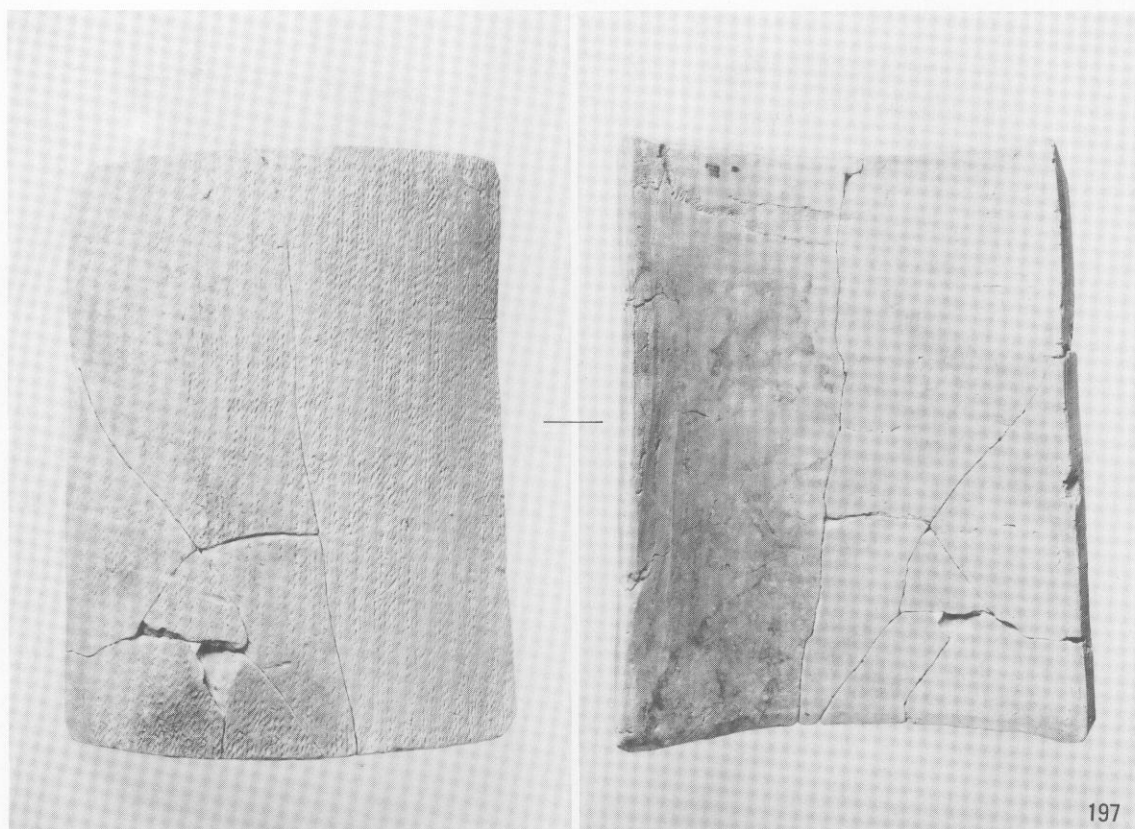


140

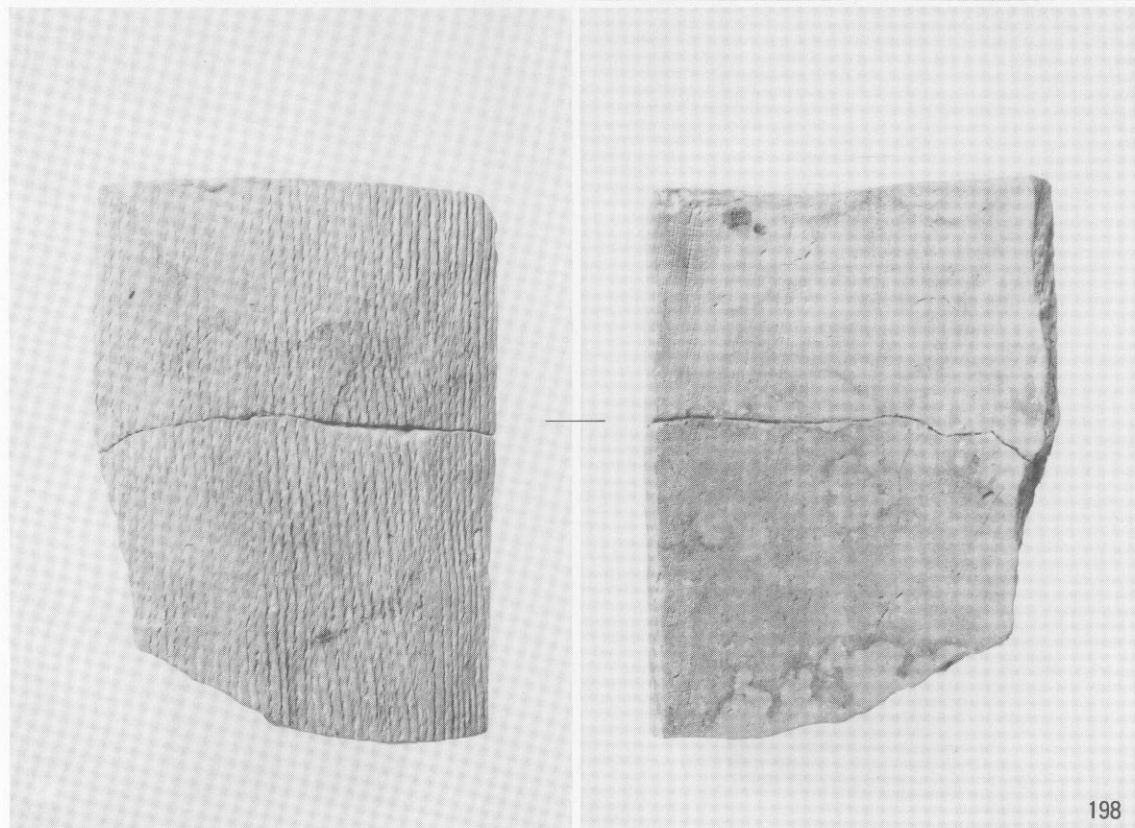


71

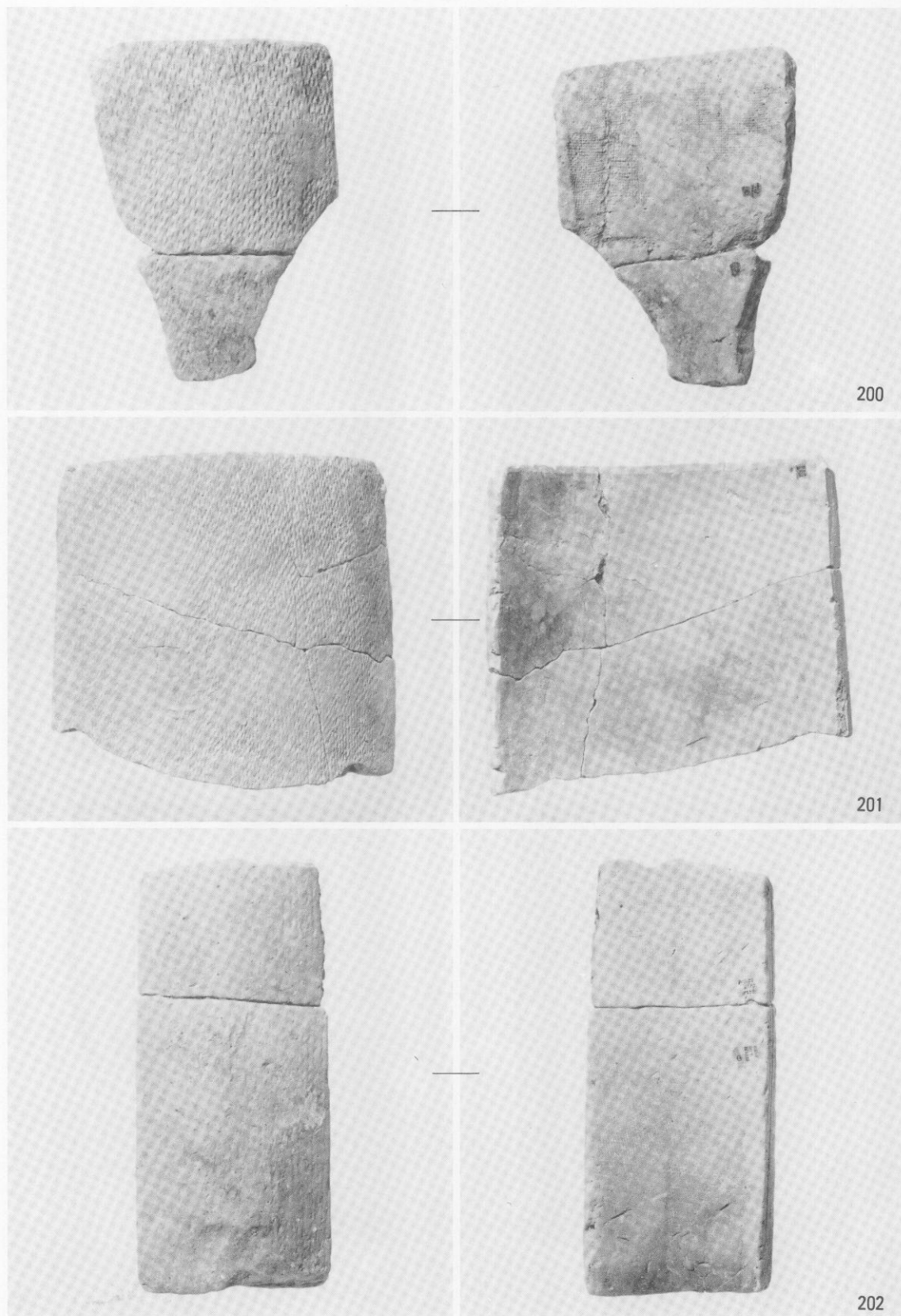




197



198



牛 頸 井 手 窯 跡 群

大野城市文化財調査報告書

第 29 集

1989年 3 月31日

発 行 大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町 2 丁目 2 番 1 号

印 刷 川辺印刷有限会社
福岡市南区高宮 1 丁目 7 - 19